

授業科目名： 情報社会と倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 情報通信技術の発達により日々変化している情報社会の特性を理解し、情報社会において生じる諸問題に対処するための知識や考え方等を学び、これからの社会で求められる情報モラル教育について考える。			
到達目標： ・ 情報社会の特性について理解する。 ・ 情報通信技術を用いる利便性と危険性のトレードオフを理解する。 ・ 情報社会における諸問題とその対応について理解する。 ・ 情報に関する法律はどのようなものがあるかを知り、その概要を理解する。 ・ 情報モラル教育を行うために必要な知識を理解する。			
授業の概要			
情報通信技術の発展により、私たちの生活様式は日々変化している。こうした変化は利便性の向上とともに、さまざまな問題を引き起こしている。本科目ではこうした問題についてどう取り組めばよいのかを、情報技術・倫理学の観点から考えていく。			
授業計画			
第1回：情報社会とその構造			
第2回：知的財産権			
第3回：著作権法			
第4回：プライバシーと個人情報			
第5回：個人情報の保護			
第6回：ネットワークサービスとその構造			
第7回：ネット・コミュニケーションの特徴			
第8回：有害情報と誤情報			
第9回：メディアリテラシー			
第10回：コンピュータウイルス			
第11回：インターネット上の詐欺行為			
第12回：ネットいじめ			
第13回：オンラインプライバシー			

第14回：デジタルデバイスとユニバーサルデザイン

第15回：情報モラル教育

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

毎時の課題（60%）、最終課題（40%）により評価を行う。

授業科目名： 情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松 原 正 也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
ICTの利用が推進される中、情報セキュリティの重要性に関する社会の認識は高まる一方である。情報安全上の脅威は、個人のみならず企業・学校などの組織においても重大な課題である。この授業では、組織における情報セキュリティの管理・運用に携わるために不可欠な知識・知見について、実例や実践を交えながら習得することを目標とする。			
授業の概要			
情報セキュリティにおける概念、脅威および脆弱性を体系的に分類し、情報セキュリティに関わる基礎技術・知識を習得するとともに、それらに対応するための事前対策的手法および技術と、有事の際の組織内の役割に応じた適切な判断と行動を体得する。			
授業計画			
第 1回：情報セキュリティの基礎(1)：情報セキュリティの概念と現状			
第 2回：情報セキュリティの基礎(2)：情報セキュリティにおける特性			
第 3回：情報セキュリティを脅かす脅威(1)：脅威の分類			
第 4回：情報セキュリティを脅かす脅威(2)：サイバー攻撃の手法			
第 5回：情報セキュリティを脅かす脅威(3)：マルウェア			
第 6回：情報セキュリティを脅かす脅威(4)：災害・システム障害・人による脅威			
第 7回：脆弱性(1)：情報通信ネットワークにおける脆弱性			
第 8回：脆弱性(2)：情報システムやアプリケーション・情報サービスにおける脆弱性			
第 9回：情報セキュリティマネジメント：リスクと組織体制の整備			
第10回：情報セキュリティ対策(1)：脆弱性の発見・アクセス制御			
第11回：情報セキュリティ対策(2)：情報セキュリティを保つシステム技術			
第12回：情報セキュリティ対策(3)：認証			
第13回：情報セキュリティ対策(4)：暗号と安全な情報通信			
第14回：情報セキュリティに関わる法制度と資格			
第15回：情報セキュリティマネジメント実践：インシデント発生時における適切な対処			
定期試験			
テキスト			
授業中に指示する。			
参考書・参考資料等			

授業中に指示する。

学生に対する評価

授業態度・課題レポート・小テストの結果・定期試験をもって評価する。

定期試験(50%)，課題レポート・小テスト(25%)，授業態度(25%)を基準とする。

授業科目名：人間発達科学Ⅱ（学校教育情報概論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			坂本 将暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》本講義は、学校教育情報コースへの導入としてはもちろん、広く教育学の入門的な意味を持ち、学校・教育事象の歴史と現代の課題に学校教育情報コースの教員がそれぞれの領域の視点から迫る。			
《到達目標》この授業では、次の点を身につけることを目標とする。			
・ 講義で使用する基本的な概念			
・ 批判的に論じたり分析したりするための様々な視点			
・ 概念や考えや結果を、現実の教育事象に応用すること			
授業の概要			
教育学に関わる学問のうち学校、児童生徒、教師に大に関わる分野に焦点を当て、歴史的・社会文化的・人間形成的な意義について講義をしたり、それらについて議論をしたりする。			
本授業では、社会との関わり、人との関わり、あるいは情報との関わりにも視野を広げて、問題解決の素養を身につけ、与えられた問題だけを解決する姿勢ではなく、切実な問題に気づき、その解決に取り組む姿勢を身につける。			
授業計画			
第1回：大学で教育学を学ぶ意義			
第2回：教育経営学			
第3回：学校病理現象			
第4回：教育改革			
第5回：学校づくり			
第6回：教育工学			
第7回：情報教育			
第8回：プログラミング教育			
第9回：STEM教育			
第10回：産業における教育工学			
第11回：授業研究			
第12回：教授の科学化			
第13回：学習の科学化			
第14回：教材研究			

第15回：教師教育学

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

授業態度（20％）、課題（30％）、定期試験（50％）

授業科目名：情報化社会と学校教育（学校教育情報基礎論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田 好章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会は、「情報化社会」「知識基盤社会」「経済のグローバル化」等の用語にみられるように大きく変容してきている。こうした新しい社会において、学校・教育の果たす役割はどのように変化してきているのであろうか。新しい社会に適合的な授業の方法、教育の内容及び教師の仕事や学校経営とはいったいどのようなものであろうか。 本講義では、学校・教育の＜現在＞を問い直し、文献やそれにもとづく議論を通して高度な専門的知識を習得し、今後の課題と展望を明らかにする。日本の学校・教育の＜現在＞を歴史的、国際的な観点から分析することのできる論理的・批判的思考力と判断力を身につける。			
授業の概要			
情報化による社会の変化に対応した学校教育のあり方を、学校教育情報コースを構成する諸領域（教育情報学、教育方法学、カリキュラム学、教師教育学、教育経営学）の学問的方法と知見にもとづき講義を行う。併せて、授業内外に課す課題を通して、受講者が多面的・多角的に考察する機会を設ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：学習過程のデザイナーとしての教師			
第3回：授業実践の本質と教師の資質			
第4回：授業改善と教師の成長 ―改善の科学としての授業研究―			
第5回：比較授業分析による教師の暗黙知の解明			
第6回：情報化の進展と学校の役割の変化			
第7回：学びのコミュニティとしての教室			
第8回：学校を基盤とする授業研究の意義			
第9回：事実にもとづく授業分析の方法と意義			
第10回：学校は何のためにあるのか―学校の社会的意義とその効果―			
第11回：学校は何のためにあるのか―伝統的解釈から新たな解釈へ―			
第12回：変容する社会と教育―グローバル化・高度情報化・知識基盤社会―			
第13回：大学入試から見る教育と社会―日本・アメリカ・イラン・フランス―			
第14回：社会の情報化と学校教育の課題			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 授業内で講義資料を配布する
参考書・参考資料等 授業内で適宜指示す。
学生に対する評価 次の方法で評価する。 1. 各テーマに関するレポート（30%） 2. 授業内の課題（20%） 3. 最終レポート（50%）

授業科目名： データサイエンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柘植直樹、福岡大輔
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまなデータの分析方法を理解し、機械学習による画像解析技術などの技能を習得する。			
授業の概要 情報化社会において、さまざまな情報はデータベースにより一元管理され、ビッグデータデータを形成し、それらはデータ分析され新たな付加価値を創出している。本講義では、多変量解析などの分析や、機械学習による分析などについて理解を深める。			
授業計画： 第1回：データ（量的データと質的データ）【担当：柘植】 第2回：データ分析と統計基礎（基本統計量）【担当：柘植】 第3回：多変量解析の基礎（回帰分析）【担当：柘植】 第4回：多変量解析の基礎（主成分分析と判別分析）【担当：柘植】 第5回：データ収集と加工【担当：柘植】 第6回：データ分析と機械学習【担当：柘植】 第7回：機械学習による数値データのクラス分類（実習含む。）【担当：福岡】 第8回：画像処理：空間フィルタ（実習含む。）【担当：柘植】 第9回：画像解析：画像特徴量（実習含む。）【担当：柘植】 第10回：機械学習と画像クラス分類の基礎【担当：福岡】 第11回：深層学習を用いた画像クラス分類（実習含む。）【担当：福岡】 第12回：オートエンコーダと画像の異常検知（実習含む。）【担当：福岡】 第13回：ビッグデータとデータ活用【担当：福岡】 第14回：データの利活用と社会システム【担当：福岡】 第15回：まとめ【担当：福岡】 定期試験			
テキスト 授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名： 情報システムとプログラミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福岡 大 輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 情報システムとプログラミングのしくみを理解し、システム開発のための技能を習得する。学校教育に活用できる能力を養うことを目標とする。			
授業の概要 講義または演習を通じて、プログラミングに関する知識と技能を習得し、プログラミング言語(Python, C#)を用いて、具体的なアプリケーションの開発を行うことができる能力を養う。また、学校教育におけるプログラミング教育を理解し、実践できる能力を養う。			
授業計画： 第1回：情報システムとプログラミング 第2回：プログラミング基礎（データ型，データ構造，オブジェクト指向） 第3回：プログラミング言語 Pythonの概要と開発環境 第4回：プログラミング言語 Pythonの基本構文 第5回：プログラミング言語 Pythonとライブラリ 第6回：プログラミング言語 Pythonによるプログラミング実習：設計 第7回：プログラミング言語 Pythonによるプログラミング実習：開発 第8回：プログラミング言語 C#の概要と開発環境 第9回：プログラミング言語 C#の基本構文 第10回：プログラミング言語 C#とGUI設計 第11回：プログラミング言語 C#とアプリケーション開発 第12回：プログラミング言語 C#によるプログラミング実習：設計 第13回：プログラミング言語 C#によるプログラミング実習：開発 第14回：プログラミングと教育（アンブラグドプログラミング） 第15回：プログラミングと教育（学校教育におけるプログラミング） 定期試験			
テキスト 授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名：教育情報学講義Ⅳ（プログラミング教育）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本 将暢
		担当形態：単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》 本授業では、高等学校「情報」においてプログラミングを指導する意義と、その能力を身につけさせる。			
《到達目標》 ・高等学校「情報」でプログラミングを学ぶ教育学的意義が理解できる。 ・種々のプログラミング言語の存在を知り、プログラムの構造を理解できる。 ・プログラミング言語に関わらず、処理手順を考えることができる。			
授業の概要			
PythonやJavaScriptなど、さまざまなプログラミング言語が用いられている。とくに、プログラミング的思考と呼ばれる問題解決のための処理手順を考える能力は、日常生活の中でも必要だと言われている。本授業では、プログラミング言語やプログラムの構造の学習を通して、プログラミングの指導ができるだけでなく、プログラミング的思考ができるように指導する。			
授業計画			
第1回：高等学校「情報」全体の概要と「情報」でプログラムを学習する目的とねらい			
第2回：アルゴリズムとフローチャート			
第3回：VBAを利用プログラミングの基本 順次・選択・反復構造			
第4回：Pythonの概要とデータの取り扱い データの型、配列			
第5回：Pythonプログラミングの基本1：順次・選択・反復構造			
第6回：Pythonプログラミングの基本2：関数、簡単なプログラム			
第7回：Pythonプログラミングの基本3：プログラミングの作成：探索のプログラム			
第8回：Pythonプログラミングの基本4：プログラミングの作成：整列のプログラム			
第9回：Pythonプログラミングの応用1：オブジェクト指向プログラミング			
第10回：Pythonプログラミングの応用2：オープンデータの活用			
第11回：Pythonプログラミングの応用3：動的シミュレーション			
第12回：Pythonプログラミングの応用4：tkinterとコンパイル			
第13回：Python以外のプログラミング言語への応用（JavaScriptなど）			
第14回：高等学校「情報」授業におけるプログラミングの指導と教材づくり			
第15回：まとめと総括			

定期試験
テキスト ・ 自作した資料を配布します。
参考書・参考資料等 ・ 高等学校「情報I」教科書 ・ 「高等学校学習指導要領解説 情報編」（平成30年7月 文部科学省） ・ 「現場ですぐに使える！ Pythonプログラミング逆引き大全400の極意」秀和システム
学生に対する評価 毎時の課題（30％），授業態度（20％），高等学校「情報」指導案（20％），教材パッケージ（30％）

授業科目名： デジタル情報システム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 舟越 久敏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本授業科目では、情報システムを構成する様々な要素技術を中心に学習し、情報システムの開発手法や活用事例について解説する。			
到達目標： ・ 数学の知識や情報に関する理論を使って、平均情報量や符号化率などを計算できる。 ・ 情報システムに関連するデジタル技術や電子技術について理解し説明できる。 ・ 情報システムを活用した具体的な事例を挙げ、その目的、機能などを説明できる。			
授業の概要 現代社会の基盤として必要不可欠な存在となっている情報システムや情報ネットワークは、高度なデジタル技術と電子技術によって支えられている。本講義では、情報システムを構成する上で重要となる符号化技術や暗号化技術、認証技術などについて学習する。また、システムと人を繋ぐ重要な役割を果たすユーザーインターフェースについても取り上げ、最後に情報システムの開発手法や活用事例について解説する。			
授業計画 第1回：情報システムとデジタル技術 第2回：情報の大きさ、情報の符号化 第3回：効率の良い符号化ーデータの圧縮ー 第4回：データの誤り検出 第5回：誤り検出符号と誤り訂正符号 第6回：誤り訂正符号による誤り訂正の仕組み 第7回：誤り訂正符号の作り方 第8回：デジタル情報の暗号化技術 第9回：デジタル署名、画像への情報埋め込み技術 第10回：個人認証技術、アクセス制御技術 第11回：システムのユーザーインターフェース 第12回：コンピュータと情報システム 第13回：情報システムの構築と維持 第14回：情報システムの活用事例			

第15回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

魚田 勝臣 他，“コンピュータ概論 情報システム入門”，共立出版

学生に対する評価

レポート試験（60％），演習課題（40％）により評価する。

授業科目名： 教育情報学講義II（教育情報データベース論）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田好章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	情報システム（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ この授業では、教育情報の処理を効果的に行うためのシステムの開発と活用の方法を学ぶ。データベースの基本概念と設計技法についての知識を身につけ、多様な教育情報の特質を理解し、教育実践の設計・評価や教育研究で活用できるデータベースシステムを構築する技能を習得する。加えて、教育学的な視点にもとづき、情報システムの可能性や課題を考察するための思考力や判断力を育成する。			
授業の概要 データベースを中心とする情報システムに関する概念的な理解を深め、教育学的な視点からシステムの仕様を定め、実習を通して教育情報を対象としたデータベースおよびアプリケーションを開発する。			
授業計画 *（括弧）は、情報技術に関する主要概念。（〔括弧〕）は、教育学的視点。〔括弧〕は、実習の内容。 1. 教育情報の特質（データ、情報、情報処理）（〔教育情報の種類と特質〕） 2. データベースの基本概念（レコード・フィールド、検索、フィルタ）〔Word、Excel〕 3. データ駆動型プログラミング（テキスト処理、正規表現）〔sh, sed, awk〕 4. 学習指導要領の分析（形態素解析）（〔学習指導要領〕）〔MeCab, awk〕 5. リレーショナルデータベースの設計1（テーブル）〔SQL〕 6. リレーショナルデータベースの設計2（リレーション）〔phpPgAdmin〕 7. データベースと連携したWebアプリケーションの設計1（検索）〔php, SQL〕 8. データベースと連携したWebアプリケーションの設計2（レコード操作）〔php, SQL〕 9. 相互評価システムの開発（〔教育評価・ルーブリック〕）〔php, SQL〕 10. 時系列データベースの設計（時系列データ解析）〔SQL、TimescaleDB〕 11. 授業分析システムの開発（〔教授学習過程・授業分析〕）〔SQL、TimescaleDB〕 12. 非リレーショナルデータベースの設計（NoSQL、グラフ型データベース）〔Neo4j〕 13. 教材構造可視化システムの開発（〔教材構造化・教材研究・授業設計〕）〔Neo4j〕 14. 知識表現と演算（XML、RDF、オントロジー）〔OWL〕 15. まとめ ～多様な教育情報とその活用のための情報システムのあり方～ *BYODで実施。ノートPCを用意すること。OSは問わないが、UNIX系のシェル・PostgreSQL・Apache・php等が利用できること。VirtualMachineの利用可。			
テキスト 授業内で配布する資料をもとに実施する。			
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。			
学生に対する評価 授業で指示する課題を評価する（知識20%、技能60%、考察20%）。			

授業科目名： ネットワークプログラ ミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福 岡 大 輔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ネットワークプログラミング言語とサーバの運用管理の技能を習得し、それらを学校教育に活用できる能力を養うことを目標とする。			
授業の概要 Webサーバのしくみや、運用・管理方法を理解するとともに、プログラミングや情報セキュリティに関する知識・技能を習得することを目的とする。Webサービスの基礎知識と各種フロントエンド言語とサーバサイド言語について学習し、インタラクティブなWebサービスを提供するシステム開発と運用・管理について実習を通じて修得する。			
授業計画： 第1回：Webサービスとプログラミング言語 第2回：Webサーバの運用と管理（開発環境の構築） 第3回：Webサーバとデータベース(SQL)のしくみ 第4回：フロントエンド言語 HTML（実習含む） 第5回：フロントエンド言語 CSS（実習含む） 第6回：フロントエンド言語 JavaScript（実習含む） 第7回：サーバサイドプログラミング言語の概要 第8回：サーバサイドプログラミング言語 PHPの基礎 第9回：サーバサイドプログラミング言語 PHPの実習 第10回：サーバサイドプログラミング言語 JavaScript（Node.js）基礎 第11回：サーバサイドプログラミング言語 JavaScript（Node.js）実習 第12回：Web APIの利用 第13回：Webサービスの開発と演習 第14回：Webサーバと情報セキュリティ 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名： 情報通信システム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松原正也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 我々の生活に不可欠となったインターネットをはじめとする情報通信技術について、その基礎的な技術やデジタル通信の成り立ち、また、さまざまな情報通信ネットワークサービスならびにWebの技術について習得する。			
授業の概要 放送を含めて通信方式は無線、有線、衛星を巻き込んだデジタル通信にその中心を移している。その中核をなすインターネットの価値はホストコンピュータの数の自乗に比例する（メトカーフの法則）といわれている。この急激なトラフィックの増加に対して、インターネット本来の持つ脆弱性からやがて崩壊に至るという予測も聞かれる。本講義では 21 世紀の情報通信システム技術を概観し、理解する。			
授業計画 第 1回：情報通信の必要性 第 2回：アナログとデジタル 第 3回：OSI基本参照モデル 第 4回：通信プロトコル 第 5回：LANとEthernet 第 6回：インターネットとTCP/IP 第 7回：ネットワークサービス 第 8回：電子メールとメッセージングサービス 第 9回：Webの活用(1)：Webのしくみ 第10回：Webの活用(2)：Webの利用 第11回：Webの活用(3)：Webアプリケーション 第12回：ソーシャルネットワーク 第13回：暗号技術 第14回：情報通信システムの開発工程 第15回：情報セキュリティと個人情報保護 定期試験 テキスト			

授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

授業態度・課題レポート・小テストの結果・定期試験をもって評価する。

定期試験(50%)、課題レポート・小テスト(25%)、授業態度(25%)を基準とする。

授業科目名： ウェブデザイン（デジタル教材開発）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本科目では、様々な種類のメディアを統合してコンテンツを作成する方法の一つであるウェブデザインの基本的な事項について講義及び演習を通じて学習する。			
到達目標： ・ ウェブデザインにおけるHTMLおよびCSSの機能を理解する。 ・ HTMLおよびCSSの記述を理解し、様々な種類のメディアを統合したウェブサイトを作成できる。			
授業の概要 利用者の利便性（ユーザビリティ）を基本とした2次元インターフェースとしてのウェブデザインについて、ウェブサイトの設計および作成をとおして学習する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：WWWのしくみ 第2回：ウェブデザインとは 第3回：HTML文書の構造と書式 第4回：情報の構造を表現するための記述 第5回：ハイパーテキストとハイパーリンク 第6回：様々な種類のメディアをウェブページに埋め込む方法 第7回：表とフォーム 第8回：ウェブサイトの設計・開発方法・配慮事項 第9回：HTMLによるウェブサイトの作成 第10回：視覚表現のためのCSSの構造と書式 第11回：装飾やデザインのためのCSSの記述 第12回：情報の構造をデザインするためのCSSの記述 第13回：レスポンシブウェブデザイン 第14回：HTMLおよびCSSによるウェブサイトの作成 第15回：開発したウェブサイトの相互評価 定期試験			

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

毎時の課題（20%）、最終課題（40%）、定期試験（40%）により評価を行う。

授業科目名： 情報メディア	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 舟越久敏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本授業科目では、マルチメディアの基盤となる音声処理技術や画像処理技術、通信技術の基本的な事項について学習する。			
到達目標： ・メディアの種類とその特徴について理解し、時と場面または環境に応じたメディアの使い方について説明できる。 ・さまざまな表現メディアについてデジタル化する方法を理解し、その仕組みについて説明できる。 ・それぞれのメディアで用いられるデジタル技術や電子技術について理解し説明できる。			
授業の概要			
コンピュータ技術やネットワーク技術の発展により、複数の情報伝達手段を統合させてより正確に情報を伝え、より高度なコミュニケーションを提供できるようになった。本授業科目では、様々な具体例を示しながら、マルチメディア技術の概要およびマルチメディアを扱うための情報処理技術の基礎について解説する。一部実習を含む。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：メディアの変遷			
第2回：マルチメディアに必要とされる工学的技術			
第3回：情報のデジタル化とそのプロセス			
第4回：音声信号のデジタル化			
第5回：【実習】サンプリング周波数と量子化ビット数について			
第6回：音声データの圧縮技術			
第7回：デジタルデータとしての画像表現			
第8回：【実習】Excelを用いた画像データの数値的处理			
第9回：代表的な画像ファイル形式とその特徴			
第10回：【実習】Excelを用いた画像データの圧縮処理			
第11回：映像データのデジタル化、デジタルテレビ技術			
第12回：アナログ変調とデジタル変調			

第13回：通信回線の種類とその特徴

第14回：移動体通信の技術的変遷

第15回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

伏見 正則，“最新マルチメディア技術とその応用”，実教出版

加古 孝，鈴木 雅也，“MPEG理論と実践”，NTT出版

学生に対する評価

レポート試験（60％），演習課題（40％）により評価する。

授業科目名： メディアコミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖, 益子 典文 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ 本科目は、よりよいコミュニケーションを実現・実施するために必要な基本的な事項を学習する。			
到達目標 ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について理解する。 ・コミュニケーションモデルおよびコミュニケーションの仕組みを理解する。 ・メディアコミュニケーションの特徴と課題を理解する。			
授業の概要 情報通信技術の発達に伴い、様々なメディアを用いたコミュニケーションが登場している。これらのメディアコミュニケーションをよりよく行うためには、メディアの特性や様々なコミュニケーション手段の特徴の他に、メディアコミュニケーションの特徴や課題についても理解する必要がある。本科目では、事例を通して、メディアコミュニケーションについて学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：メディアの種類とその特徴（担当：今井） 第2回：コミュニケーションとコミュニケーション・モデル（担当：今井） 第3回：言語コミュニケーション（担当：今井） 第4回：非言語コミュニケーション（担当：今井） 第5回：社会的認知（担当：今井） 第6回：対人距離（担当：今井） 第7回：メディアコミュニケーション(1)：電話コミュニケーション（担当：今井） 第8回：メディアコミュニケーション(2)：コンピュータコミュニケーション（担当：益子） 第9回：メディアコミュニケーション(3)：マスメディア（担当：今井） 第10回：メディアコミュニケーション(4)：ヒューマンインタフェース（担当：今井） 第11回：メディアコミュニケーションの特徴（担当：今井） 第12回：メディアコミュニケーションの課題（担当：益子） 第13回：人間の行動モデル（担当：今井） 第14回：メンタルモデル（担当：今井） 第15回：ユーザビリティとアクセシビリティ（担当：今井）			

定期試験
テキスト 授業にて適宜紹介する.
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する.
学生に対する評価 毎時の課題（40%），定期試験（60%）により評価を行う.

授業科目名：教育情報学講義Ⅲ（情報メディア表現論）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本 將暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》本科目では、さまざまな種類のメディアを用いてwebコンテンツや動画コンテンツを作成する方法の基本的な事項について、講義と演習を通じて行う。			
《到達目標》本科目では、次の3点を到達目標とする。			
・授業で役立つメディアの種類と、その活用方法を理解する。			
・メディア及びコンテンツの教育学的意義について、視覚効果を手がかりに理解する。			
・授業で活用できる動画コンテンツを教育学的意義とメディアの特性を理解した上で、作成することができる。			
授業の概要			
コンピュータから周辺機器などのメディアを通じ、画像・映像などを使ったマルチメディア表現の技術を歴史・構造・内容から総合的に学び、教育的なメディア表現の可能性について考える。また制作実習において、目的に応じた活用・表現のあり方の相違を体感することで、伝えることのデザイン能力と機能性を培う。受講者が互いの成果を発表・鑑賞し合うことで、具体的な技術活用法を学び、感性や発想を磨く機会を設けたい。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（教育におけるメディア利用の変遷）			
第2回：ラジオとテレビの教育利用			
第3回：OHPの教育利用			
第4回：プレゼンテーションソフトの教育利用			
第5回：webコンテンツの教育利用			
第6回：マルチメディアの教育学的意義			
第7回：教育における視覚効果			
第8回：メディアコンテンツ教育学的意義1：行動主義的要素の理解			
第9回：動画コンテンツの作成1：編集基礎			
第10回：動画コンテンツの作成2：内容設計			
第11回：動画コンテンツの作成3：編集応用			
第12回：動画コンテンツの作成4：まとめ			
第13回：作成した動画コンテンツの相互評価			
第14回：メディアコンテンツ教育学的意義2：構成主義的要素の理解			

第15回：教育的動画コンテンツ配信の可能性と課題

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

毎時の課題（15%）、授業態度（15%）、作品課題（35%）、定期テスト（35%）

授業科目名：教育情報学講義I（情報・職業教育論）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本 將暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報と職業		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》情報化社会、Society 5.0における職業の特徴・特性について、歴史的経緯、職業倫理、職業観・労働観を踏まえ、職業を通して社会に貢献する意識・意義を身につけさせる。			
《到達目標》			
・産業の発展と職業観・労働観の変遷について理解できる。			
・情報化社会・Society 5.0における生徒の職業指導の意義と可能性について考えることができる。			
・情報技術を用いたビジネスの可能性、それに伴う危険について考え、両側面を踏まえた自身の職業観・労働観を醸成することができる。			
授業の概要			
十分な社会経験のない教職課程の学生が、情報化社会における職業のあり方や産業構造について学び、的確な進路指導や職業指導ができるようにする。とくに、本授業を通して職業観や労働観の形成の重要性やその方法について学ぶことで、教職に就こうとする学生のそれらを醸成する。			
授業計画			
第1回：情報化社会・Society 5.0			
第2回：情報化社会と情報システム			
第3回：情報化社会における職業観			
第4回：職業指導			
第5回：情報化社会の高等教育における人材育成			
第6回：情報技術と人材育成			
第7回：環境と労働観の変化			
第8回：インターネットビジネス			
第9回：企業内教育			
第10回：情報化社会における犯罪と法制度			
第11回：情報産業におけるビジネスモデル			
第12回：情報化社会におけるリスクマネジメント			
第13回：情報技術と消費行動			
第14回：知的財産の保護と活用			

第15回：デジタルデバインド

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

毎時の課題（15％）、Society 5.0における人材育成に関する課題レポート（15％）、OJTおよびOff JTに関する課題レポート（20％）、定期試験（50％）

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井亜湖
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：体系的な情報教育の一環として高等学校情報科の役割、小・中学校および他教科との連携の必要性、共通教科「情報」の教育目標・科目編成・学習内容・指導上の留意点を理解した上で、年間指導計画の作成法・授業設計法・学習指導案の作成法について学習する。			
到達目標：			
・情報教育における高等学校情報科の役割を理解する。 ・共通教科「情報」の教育目標、科目編成、各科目の学習内容について理解する。 ・共通教科「情報」の各学習内容の指導上の留意点を理解する。 ・共通教科「情報」におけるICT活用事例を知り、こうしたICTを活用するための学習環境のデザイン方法を知る。 ・インストラクショナルデザインの手法を用いた授業設計ができる。 ・学習指導案の構成を理解した上で、共通教科「情報」の授業設計および学習指導案の作成ができる。			
授業の概要			
高等学校共通教科「情報」の教育目標、科目編成、学習内容を情報教育の体系的カリキュラムの中に位置づけて理解し、実際に授業を行う際に必要とされる授業設計のための基礎知識および能力を習得し、学習指導案の作成ができるようにする。			
授業計画			
第1回：情報教育の目的とその体系的カリキュラム			
第2回：情報教育における高等学校情報科の位置づけ			
第3回：共通教科「情報」の目的と科目編成			
第4回：情報（データベース）の学習内容の分析			
第5回：情報（ネットワーク）の学習内容の分析			
第6回：共通教科「情報」の学習内容と指導上の留意点			
第7回：共通教科「情報」の学習評価			
第8回：共通教科「情報」におけるICT活用と学習環境デザイン			
第9回：授業設計法			
第10回：年間指導計画の作成			
第11回：年間指導計画の発表会・検討会			
第12回：学習指導案の作成			

第13回：学習指導案の発表

第14回：学習指導案の検討

第15回：総括：事例から情報科の授業設計をふりかえる

定期試験

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月告示 文部科学省）

学生に対する評価

毎時の課題（70%）、定期試験（30%）により評価する。

授業科目名： 情報科教育法 II		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今井亜湖
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：情報科教育法Iの講義内容をふまえ、本講義では高等学校専門教科「情報」の教育目標・科目編成、各科目の学習内容について理解し、模擬授業を通して、高等学校情報科の授業設計・実施・評価・改善を行うための基礎的知識・技能を習得する。				
到達目標：				
・ 共通教科「情報」と専門教科「情報」の違いを理解する。 ・ 専門教科「情報」の教育目標、科目編成、各科目の学習内容および指導上の留意点を理解する。 ・ 専門教科「情報」の各科目の背景となる学問領域を理解する。 ・ インストラクショナルデザインの手法を用いた授業設計ができる。 ・ 教科「情報」の探究学習（特に協働学習）におけるICTの効果的な活用方法について、演習を通して理解する。 ・ 発展的な学習内容を学習指導で位置づける必要性を理解し、そのための方法論を知る。				
授業の概要				
本科目では、高等学校専門教科「情報」に焦点を当て、共通教科「情報」との違い、専門教科「情報」の教育目標、科目編成、学習内容について学習する。また、情報科教育法Iで学習した授業設計法を用いて授業設計および指導案・教材の作成、模擬授業の実施・評価を行うことで、情報科の具体的な授業場面を想定した授業設計に必要な知識・技能を習得する。				
授業計画				
第1回：共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い				
第2回：専門教科「情報」の目標と科目編成				
第3回：専門教科「情報」の各科目の学習内容と指導上の留意点				
第4回：教科書分析				
第5回：教科書分析の結果の交流				
第6回：授業設計法				
第7回：教科「情報」の探究学習におけるICT活用法				
第8回：共通教科「情報」の授業設計				
第9回：授業設計に基づく学習指導案の作成				
第10回：模擬授業のための教材作成				
第11回：模擬授業のための教育環境のデザイン				

第12回：情報セキュリティに関する模擬授業と検討会
第13回：プログラミングに関する模擬授業と検討会
第14回：データベースの応用技術に関する模擬授業と検討会
第15回：総括：発展的な内容の扱い
定期試験

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

毎時の課題（70%）、定期試験（30%）により評価を行う。

授業科目名： 教職リサーチⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 教育現場への参加を通して、教職の意義、教員の職務や役割について理解する。日常の教育活動を観察・調査しつつ参加型の教育実践を体験し、教育実習に向けての準備を行う。			
到達目標： 学習指導、学級経営等に関し、1～4の項目における基礎的な知識や姿勢を習得する。 1. 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事 2. 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事 3. 教員として求められる生徒や学級経営等に関する事 4. 教員として求められる教科等の指導力に関する事			
授業の概要			
中学校の教育現場へ参加し、教職の意義、教員の職務や役割を理解する。日常の教育活動を観察・調査しつつ参加型の教育実践を体験し、教育実習に向けての準備を行う。また、中学生の発達段階に応じた教育技術習得のための基礎を身につける。			
授業計画			
第1回：教職リサーチⅡ事前指導（全体）			
第2回：教職リサーチⅡ事前指導（学校別）			
第3回：授業計画・方法の理解			
第4回：授業観察ならびに授業準備の補助（配属クラス）			
第5回：生徒の行動記録の発表と討議（配属クラス）			
第6回：授業観察ならびに授業準備の補助（専攻教科授業）			
第7回：生徒の行動記録の発表と討議（専攻教科授業）			
第8回：グループワーク			
第9回：チームティーチングによる指導と指導結果についての分析			
第10回：授業補助を通じた指導案作成手続きの学習			
第11回：指導案の発表・討議			
第12回：代表による発表会			
第13回：実習の反省会			
第14回：教職リサーチⅡ事後指導（全体）			

第15回：教職リサーチⅡ事後指導（学校別）

テキスト

事前指導日に示す。

参考書・参考資料等

事前指導日に指示する。

学生に対する評価

リサーチ実習（5日間）における教育実習校側の評価と大学側の事前・事後指導の評価を相互に照らし合わせて、総合的に評価する。
--

授業科目名： 教職インターン（前期）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 3年生までの学習や実習（教職トライアル・教職リサーチ・教職プラクティス）を通して把握した自身の実践課題やテーマを，自ら希望して主体的に展開する当該実習を通して探求し，教員としての実践力を身につける。 到達目標： 教職プラクティス等を通して，教育実践活動（教科指導、児童生徒理解、特別支援教育等）の諸側面において把握した自身の課題やテーマをもとに，教育実習協力校または学生の出身校における前期の学習内容に関する学習指導や学校行事に参画する。その経験に基づく協議や相談を活かして，主体的に実習を計画・展開・省察することができる。			
授業の概要 学生が3年次に教育実習を受けた教育実習協力校または学生の出身校等において，教育実習の成果を生かし，就業体験を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教職インターン事前指導 第3回：配属学校オリエンテーション 第4回：授業計画・方法の理解 第5回：授業観察ならびに授業準備の補助（配属クラス） 第6回：児童・生徒の行動記録の発表と討議（配属クラス） 第7回：授業観察ならびに授業準備の補助（専攻教科授業） 第8回：児童・生徒の行動記録の発表と討議（専攻教科授業） 第9回：自己の課題やテーマの把握 第10回：グループワーク 第11回：チームティーチングによる指導と指導結果についての分析 第12回：授業補助を通じた指導案作成手続きの学習 第13回：指導案の発表・討議 第14回：実習の反省会 第15回：教職インターン事後指導			

テキスト 事前指導日に示す。
参考書・参考資料等 事前指導日に指示する。
学生に対する評価 インターン実習（期間中12日以内，60時間以上）における教育実習協力校または学生の出身校側の評価と大学側の指導の評価を相互に照らし合わせて，総合的に評価する。

授業科目名： 教職インターン（後期）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 3年生までの学習や実習（教職トライアル・教職リサーチ・教職プラクティス）を通して把握した自身の実践課題やテーマを，自ら希望して主体的に展開する当該実習を通して探求し，教員としての実践力を身につける。 到達目標： 教職プラクティス等を通して，教育実践活動（教科指導、児童生徒理解、特別支援教育等）の諸側面において把握した自身の課題やテーマをもとに，教育実習協力校または学生の出身校における後期の学習内容に関する学習指導や学校行事に参画する。その経験に基づく協議や相談を活かして，主体的に実習を計画・展開・省察することができる。			
授業の概要 学生が3年次に教育実習を受けた教育実習協力校または学生の出身校等において，教育実習の成果を生かし，就業体験を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教職インターン事前指導 第3回：配属学校オリエンテーション 第4回：授業計画・方法の理解 第5回：授業観察ならびに授業準備の補助（配属クラス） 第6回：児童・生徒の行動記録の発表と討議（配属クラス） 第7回：授業観察ならびに授業準備の補助（専攻教科授業） 第8回：児童・生徒の行動記録の発表と討議（専攻教科授業） 第9回：自己の課題やテーマの把握 第10回：グループワーク 第11回：チームティーチングによる指導と指導結果についての分析 第12回：授業補助を通じた指導案作成手続きの学習 第13回：指導案の発表・討議 第14回：実習の反省会 第15回：教職インターン事後指導			

テキスト

事前指導日に示す。

参考書・参考資料等

事前指導日に指示する。

学生に対する評価

インターン実習（期間中12日以内，60時間以上）における教育実習協力校または学生の出身校側の評価と大学側の指導の評価を相互に照らし合わせて，総合的に評価する。

授業科目名：教育リーダー実践Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 実際の学校現場で、その課題を発見し検討しプレゼンする能力を培う。 到達目標： 岐阜県内における小規模校の教育の特色と魅力について理解する。また、主として観察を通じて、教員になりたいという想いを再確認する。他の学生との交流を通じて、多面的な児童理解や学校理解ができるようにする。			
授業の概要 教職リサーチや教職プラクティスでは学ぶことがやや難しい岐阜県の教育の現代的教育課題について実習を通して学ぶ。岐阜県内には、山間部を中心に小規模校が多数ある。そうした小規模校では、様々な課題や特徴を持ち、小規模校ならではの魅力がある。そうした魅力について、主として観察を通して理解する。具体的には、山県市の小規模校での実習を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：受講者ガイダンス、教職を目指す意義の再確認 第2回：岐阜県の小規模校の現状と課題について基本的な事項を学ぶ 第3回：山県市の小規模学校の概要 第4回：山県市の小規模校の教育の現状と課題 第5回：観察・実習の視点の確認 第6回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の参観Ⅰ（受講者ガイダンス） 第7回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の参観Ⅱ（小規模校について基本的な事項を学ぶ） 第8回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の参観Ⅲ（授業参観） 第9回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の参観Ⅳ（小規模校ならではの課題観察） 第10回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の参観Ⅴ（授業参観の振り返り） 第11回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の実習Ⅰ（キャンプ場で児童・生徒との交流） 第12回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の実習Ⅱ（授業時の振り返り） 第13回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の実習Ⅲ（グループワーク） 第14回：山県市内の小規模校の児童・生徒教育の実習Ⅳ（グループ発表） 第15回：総合的な学びの振り返り			

テキスト 資料を配付する。
参考書・参考資料等 岐阜県に関する図書館にある資料を活用する。
学生に対する評価 参観・実習の評価（50％）と自分の意見をまとめたリフレクション（50％）を合わせて総合的に評価する。

授業科目名：教育リーダー実践Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 教育リーダー実践Ⅰで得た課題を発見し検討し、さらに解決するための方策をプレゼンする能力を培う。 到達目標： 岐阜県内における外国籍の児童・生徒の状況を理解し、日本語教育の実際と外国人児童・生徒と日本人児童・生徒の共生様子を理解する。将来、こうした外国籍の児童・生徒が在籍する小中学校に勤務した時の基礎的な知識と技術を身に着ける。総じて、教師としての視野を広め深める体験をし、その意義を振り返る。また、人権教育や院内学級など、特色のある学校教育活動を実施している学校の実態についても理解する。			
授業の概要 教職リサーチと教職プラクティスとでは学ぶことがやや難しい岐阜県の現代的教育課題を、小中学校等の児童・生徒の観察や実習を通して学ぶ。本講義では、岐阜県内でも増加傾向にある外国籍の児童・生徒の教育を実践している岐阜市内での小中学校の観察と触れ合い体験を実施する。外国人児童・生徒への日本語教育の実際を観察するとともに、外国人児童・生徒と日本人児童・生徒の共生の様子を観察する。加えて、各小中学校には様々な特色があるため、当該小中学校の課題についても学ぶ。			
授業計画 第1回：受講者ガイダンス、教職を目指す意義の再確認 第2回：岐阜県の外国籍児童・生徒教育の現状と課題について基本的な事項を学ぶ 第3回：実習予定学校の概要 第4回：実習予定学校の外国籍児童・生徒教育の現状と課題について基本的な事項を学ぶ 第5回：観察・実習の視点の確認 第6回：外国籍の児童・生徒教育の参観・実習Ⅰ（受講者ガイダンス） 第7回：外国籍の児童・生徒教育の参観・実習Ⅱ（所属長からの講話） 第8回：外国籍の児童・生徒教育の参観・実習Ⅲ（外国籍児童・生徒教育授業参観・実習） 第9回：外国籍の児童・生徒教育の参観・実習Ⅳ（授業参観・実習振り返り） 第10回：実習予定校の人権教育の現状と課題			

第11回：実習予定校の人権教育の参観・実習 第12回：実習予定校参観・実習の振り返り 第13回：院内学級の意義、病弱児童・生徒やその家庭への配慮についての講義 第14回：総合的な学びの振り返り 第15回：グループ発表
テキスト 資料を配付する。
参考書・参考資料等 岐阜県に関する図書館にある資料を活用する。
学生に対する評価 参観・実習の評価（50％）と自分の意見をまとめたリフレクション（50％）を合わせて総合的に評価する。

授業科目名： 教授設計入門I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 意図的な学習（明確な学習目標を設定し、その目標を達成するための学習）のためのインストラクション（学習者の学習を支援するための様々な活動）を効果的にデザインするための手法に関する知識・スキルを学ぶ。			
到達目標： ・ADDIE モデルについて理解する。 ・ADDIE モデルを用いた授業・学習プログラムのデザインができる。			
授業の概要			
意図的な学習（明確な学習目標を設定し、その目標を達成するための学習）のためのインストラクション（学習者の学習を支援するための様々な活動）を効果的にデザインするための手法の一つであるインストラクショナルデザインの代表的モデルである ADDIE モデルを理解し、この手法を用いた授業設計・学習プログラム開発の方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：インストラクショナルデザインとADDIEモデル			
第2回：分析：ニーズ分析，課題分析			
第3回：設計：学習目標の設定，学習内容の系列化			
第4回：開発：学習活動の具体化，学習計画の作成，教材の開発			
第5回：評価：学習者評価，授業・プログラム評価			
第6回：中間試験，ADDIEモデルを用いた授業設計・学習プログラム開発の方法			
第7回：学習プログラムの開発			
第8回：開発した学習プログラムの相互交流，総括			
テキスト			
授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			
・ 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
・ 高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）			
・ その他の参考資料については、授業にて適宜紹介する。			

学生に対する評価

毎時の課題（25%），中間試験（35%），最終課題（40%）により評価を行う。

授業科目名： 教授設計入門II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本科目は、教授設計入門 I で学んだ意図的な学習のためのインストラクションを効果的にデザインするための手法（ADDIE モデル）に関する知識とスキルを、フィールドにおける演習を通して身につけていくことを目的とする。			
到達目標： ・ ADDIE モデルを用いて学習プログラムを開発できる。 ・ ADDIE モデルを用いて開発した学習プログラムの実施・評価を行うことができる。			
授業の概要			
教授設計入門 I で学んだインストラクショナルデザインの代表的モデルである ADDIE モデルを用いて学習プログラムを開発し、実際のフィールドにてその学習プログラムを実施・評価する。			
授業計画			
第1回：ADDIEモデルを用いた学習プログラムの開発とは			
第2回：学習プログラムの開発			
第3回：教材の開発および実施準備			
第4回：評価計画			
第5回：学習プログラムの実施			
第6回：学習プログラムの評価			
第7回：学習プログラムの改善			
第8回：実施した学習プログラムの報告会および相互交流、総括			
テキスト			
授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			
・ 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・ 高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省） ・ その他の参考資料については、授業にて適宜紹介する			
学生に対する評価			
学習プログラム（40%），報告会（30%），最終課題（30%）により評価を行う。			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂本 一也
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：日本国憲法の基本的内容を理解するとともに、憲法の重要問題（論点）について自分の意見が言えるようになることを目標とする。			
到達目標：			
1．日本国憲法の基本的内容を理解すること（教職に必要な知識の習得）			
2．日常の問題を日本国憲法の視点から考える基礎をつくること			
3．憲法に関わる問題を法的に論述できること			
授業の概要			
「憲法」については中学や高校での学習やニュースで触れる機会があり、多くの人がどのようなことを規定しているのかについて一定の知識を持っている。しかし、憲法が具体的にどのような内容を定めており、実際にどのような役割を果たしているのかについて考えることは少なかつたのではないだろうか。そこで、この授業では憲法が定める基本的人権の尊重を中心に、それを支える国家制度について解説する。その際、過去の事件や判決などを取り上げ、憲法に基づいてどのように判断され、解決されたのかを考えていく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：憲法を学ぶにあたって			
第2回：立憲主義について：誰が憲法を守るのか			
第3回：日本国憲法の基本原理①：国民主権について			
第4回：日本国憲法の基本原理②：平和主義について			
第5回：日本国憲法の基本原理③：基本的人権の保障について			
第6回：基本的人権の保障と限界①：人権の共有主体は誰か			
第7回：基本的人権の保障と限界②：公共の福祉とは			
第8回：包括的基本権：幸福追求権と自己決定権について			
第9回：法の下での平等：平等が意味することについて			
第10回：自由権①：精神的自由			
第11回：自由権②：経済的自由・人身の自由			
第12回：社会権①：生存権			
第13回：社会権②：教育を受ける権利など			
第14回：統治機構：国会、内閣、裁判所			

第15回：授業のまとめ：理解確認テスト

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

毎時の課題（25%），理解確認テスト（75%）により評価を行う。

授業科目名： アダプテッドスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 公昭
		担当形態：単独	
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 障害のある人や体力レベルの低い人であっても参加することができるスポーツ活動を学ぶ。			
到達目標： 受講者それぞれが有しているケガや障害像、体力レベルについて理解する。 個々の状態に応じてウォーミングアップ、その後に実施する主運動、クールダウンについて、その効果とリスクについて理解する。			
授業の概要			
日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門分科会によれば、『adapted sports』とは、ルールや使用する用具などを障害の種類や程度に適合（adapt）することによって、障害のある人や体力レベルの低い人であっても参加することができるスポーツ活動のことを指す。個々の活動レベルに応じてスポーツ活動を実践することで、『生活の質』（Quality of Life：QOL）が向上することが期待できる。 本講義では、個々の活動レベルに応じたスポーツ活動を通じて、楽しみながら運動を継続できるよう講義（実技）を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・アダプテッド・スポーツとは			
第2回：障害像の理解（理論）			
第3回：リハビリテーション・ウォーミングアップ・クールダウン（理論）			
第4回：リハビリテーション・ウォーミングアップ・クールダウン（実技）			
第5回：アダプテッドスポーツ（実技）スポーツ鬼ごっこ			
第6回：アダプテッドスポーツ（実技）大縄跳び			
第7回：アダプテッドスポーツ（実技）ソフトバレーボール			
第8回：アダプテッドスポーツ（実技）ショートテニス			
第9回：アダプテッドスポーツ（実技）ファミリーバドミントン			
第10回：アダプテッドスポーツ（実技）ペタンク			
第11回：アダプテッドスポーツ（実技）インディアカ			
第12回：アダプテッドスポーツ（実技）フライングディスク			
第13回：アダプテッドスポーツ（実技）ボッチャ			

第14回：アダプテッドスポーツ（実技）風船バレー

第15回：アダプテッドスポーツ（実技）タグラグビー

テキスト

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題・レポート（70%），授業・実技への取り組み（30%）により評価を行う。

授業科目名： ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 直人
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： ウインドミル投法の習得を通して、試行錯誤や創造する楽しさを体験する。			
到達目標： いわゆる競技ソフトボールである「ファストピッチ・ソフトボール」において、現在、最も主流となっている投法は、腕を1回転させてボールを投げるウインドミル投法である。しかしながら、その固有のフォームゆえに独学による習得は簡単とは言えない。本授業では、ウインドミル投法の基礎を体系立てて解説し、その習得を目指す。			
授業の概要			
ウインドミル投法の基礎を体系立てて解説し、習得を目指して指導する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：道具の管理、取り扱い、危険に対する考え方、ボールに慣れる			
第3回：基礎練習（捕球と送球）			
第4回：ウインドミル投法① リズムとからだの合理的な使い方			
第5回：ウインドミル投法② ブラッシングの技術			
第6回：ピッチング（ウインドミル投法）とストライクゾーン			
第7回：中間実技テスト			
第8回：変化球・チェンジアップの投げ方			
第9回：個別練習（問題点の自己分析）			
第10回：個別練習（問題点の解決方法の検討）			
第11回：ポジションを決めてチーム練習① ピッチング（ウインドミル投法）			
第12回：ポジションを決めてチーム練習② 内野の連携守備			
第13回：実践練習または試合（Aグループ）			
第14回：実践練習または試合（Bグループ）			
第15回：ウインドミル投法まとめ			
実技テスト			
テキスト			

授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 実技テスト（70%），授業・実技への取り組み（30%）により評価を行う。

授業科目名： ヨガ・エアロビクス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊谷 佳代
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 身体の動きについて理解する。 (2) 運動の効果について理解を深める。 (3) 合理的な運動の仕方を学び、各人が自分に合ったやり方で運動強度を調節したり工夫したりして運動を行うことが出来る。 (4) 自分に合った運動プログラムを作成する。			
授業の概要 ヨガやエアロビック・ダンスなどの運動を通して、動きを意識することと身体感覚に集中することに重点をおく。 他者と比べることはなく、自分にとって「気持ちいいとは何か」「正しい動きとは何か」「楽しいという感覚」を確かめながら、生涯を通して主体的に運動実践を継続するための能力を養う。			
授業計画 第1回：キャンパスライフの健康科学（全体講義） 第2回：ガイダンス 姿勢と呼吸 簡単なヨガ 体幹力とバランス力の測定① 第3回：ウォーミングアップと簡単な動作 簡単なヨガ 第4回：基本ステップと簡単なヨガ 第5回：エクササイズ①、背骨について 第6回：エクササイズ②、股関節について 第7回：エクササイズ③、反り系ヨガ 第8回：エクササイズ④運動強度の測定①、体側伸ばし系ヨガ 第9回：エクササイズ⑤運動強度の測定②、逆転系・前屈系ヨガ 第10回：エクササイズ⑥運動強度の測定③、バランス系ヨガ 第11回：症状別おすすめヨガ 第12回：自分流ヨガプログラムについて 第13回：自分流ヨガプログラムの作成 第14回：自分流ヨガプログラムの実践 体幹力とバランス力の測定② 第15回：自分流ヨガプログラムのまとめ			
テキスト 授業にて適宜配布する。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業態度60%：運動強度の測定、体幹力・バランス力の測定、運動日誌をもとに評価する。

レポート40%：レポートと自分流ヨガプログラムについて評価する。

授業科目名： 卓球	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岸 順治
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 卓球の基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、卓球のルールや歴史について基本的知識を身につける。			
到達目標： スポーツとしての卓球の技術習得を目指す。つまり、フォアハンド・ロングとバックハンド・ショート技術を習得し、安定した返球ができることを目的とする。そのために、構え、グリップ、ストローク、フットワークなど基礎的な練習を繰り返し行い、様々な遊び感覚のゲームや公式ルールによるゲームも行う。単なる「遊び」としての卓球から、「スポーツ」としての卓球技術を学び、生涯スポーツに位置づけることを目標とする。			
授業の概要 「スポーツ」としての卓球技術を学び、フォアハンド・ロングやバックハンド・ショート等の技術を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、授業の概要説明			
第2回：グリップ、ラケットティング、フロア・ラリー			
第3回：バックハンド・ショート			
第4回：フォアハンド・ロング			
第5回：ラリーとフットワーク			
第6回：ツッツキとスマッシュ（3球目攻撃）			
第7回：サーブとレシーブ、ボールの回転と対応			
第8回：ゲームのルールと進め方			
第9回：簡易ゲーム			
第10回：シングルスゲーム			
第11回：ダブルスゲームのルールと進め方			
第12回：団体戦（単）			
第13回：団体戦（単・複）			
第14回：講義（卓球の歴史と変遷）			
第15回：まとめと理解度認定			

テキスト

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への取り組み・態度（60％）、筆記小テスト（40％）により総合的に判定する。小テストは、卓球のルール、特徴、歴史に関する理解度を評価する。

授業科目名： 卓球・水泳	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広田 勲、清水 将文 担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 卓球と水泳を通して心身の健康増進を図る。 到達目標： 卓球と水泳を通して、心身をリフレッシュしながら健康増進を図る。			
授業の概要 講義期間の前半は卓球、後半は水泳を行う。卓球は身体のリフレッシュを主な目的としている。競技経験の有無は問わない。水泳は陸上トレーニングで得られない体力作りや身体のリフレッシュを目的としている。授業内容は初心者が対象ではなく、ある程度泳げる者を対象とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス、授業の概要説明（担当：清水） 第2回：保健管理センターによる特別講義 第3回：卓球①（グリップ、ラケットティング、フロア・ラリー）（担当：清水） 第4回：卓球②（バックハンド・ショート）（担当：清水） 第5回：卓球③（フォアハンド・ロング）（担当：清水） 第6回：卓球④（ラリーとフットワーク）（担当：清水） 第7回：卓球⑤（ツッツキとスマッシュ（3球目攻撃））（担当：清水） 第8回：卓球⑥（サーブとレシーブ、ボールの回転と対応）（担当：清水） 第9回：卓球⑦（簡易ゲーム）（担当：清水） 第10回：卓球⑧（ゲーム1（シングルス））（担当：清水） 第11回：卓球⑨（ゲーム2（ダブルス））（担当：清水） 第12回：水泳①（クロール）（担当：広田） 第13回：水泳②（平泳ぎ）（担当：広田） 第14回：水泳③（背泳ぎ）（担当：広田） 第15回：水泳④（バタフライ）（担当：広田） 実技テスト			
テキスト 授業にて適宜配布する。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実技テスト（５０％），授業・実技への取り組み（５０％）により評価を行う。

授業科目名： 新卓球（ラージボール）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横川 隆志
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 生涯スポーツとしても注目されている新卓球（ラージボール）の楽しみを知る。 到達目標： 健康を維持し、元気で実技が行えること、フォアハンドでラリーを続けること、試合の進め方を覚えること、試合相手やダブルスのコンビ間でコミュニケーションが取れること。			
授業の概要 幅広い年代の人に卓球競技を普及させ、またレクリエーションスポーツとしても楽しめるように、という目的で、昭和63年日本卓球協会が新しく考案したのがラージボール卓球である。通常（直径40 mm）よりも大きく（直径44 mm）軽いボールを用いるためボールのスピードが出にくく、また変化も少ないため、ラリーが続き、初心者であってもラリーを楽しむことができる。このため、ラージボール卓球は生涯スポーツとしても注目されている。本授業では特に卓球初心者の人に卓球のラリーの楽しみを知ってもらうことを授業のねらいとしている。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ラケットの握り方、ラケットでのボールの扱い 第3回：フォアハンド 第4回：試合のルール説明 第5回：バックハンド 第6回：フォアとバックの切り返し 第7回：カットサービスとレシーブ 第8回：シングルス試合練習 第9回：シングルス戦1、基礎練習（攻めを中心に） 第10回：シングルス戦2、基礎練習（守りを中心に） 第11回：ダブルスの動き方 第12回：ダブルスの試合練習 第13回：ダブルス戦 第14回：団体戦 第15回：総まとめ			

実技テスト
テキスト 授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 実技テスト（20％程度）、授業への取り組み・態度（80％程度）。

授業科目名： テニス I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 長 かおり
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1.Game based approachの観点からゲームで使うグラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ネットプレー（ボレー・スマッシュ）、サーブ・レシーブ等の基礎技術、ラリー能力の獲得 2. ゲームの実践 3. テニスの審判法を身につける			
授業の概要 この授業では主に基礎技術の獲得を目指す。またゲーム方法の基礎を学び、ゲームを通じてマナーやコミュニケーション方法、パートナーへの信頼、対戦相手への尊敬心を養う。基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。 授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：基礎技術 グラウンドストローク サーブ・レシーブ 第3回：基礎技術 グラウンドストローク ミニゲーム 第4回：基礎技術 ネットプレー ボレー ミニゲーム 第5回：基礎技術 ネットプレー スマッシュ ミニゲーム 第6回：シングルの基礎、審判法を学ぶ 第7回：シングルス ストローク練習とミニゲーム 第8回：シングルス ボレー練習とミニゲーム 第9回：シングルス サーブ練習とミニゲーム 第10回：ダブルスの基礎、審判法を学ぶ 第11回：ダブルス フォーメーションと戦術 第12回：ダブルス 試合の進め方、スコアの数え方、試合形式 第13回：ダブルス 試合形式による段階的指導法の実践、安全対策 第14回：ダブルス ダブルスの応用技術、戦術 第15回：ダブルス 異なる技能のメンバーでのミニゲーム			
テキスト 必要に応じて資料を配布			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

授業への取り組み・態度（70%）、テニスの基礎技術の獲得度、競技特性の理解（20%）、
獲得した技術をゲーム状況に応じて生かす工夫がされているか（10%）

授業科目名： テニスII	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長 かおり
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1.Game based approachの観点からゲームで使うグラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ネットプレー（ボレー・スマッシュ）、サーブ・レシーブ等の基礎技術の応用 2. ゲームに必要なフットワーク、ポジショニング、フォーメーション、パターンの理解と実践、分析 3. テニスの審判法を身につける			
授業の概要			
この授業ではテニスの競技特性を理解し、ゲームにおける戦術戦略の立て方の習得を目指す。また、ゲームを通じてマナーやコミュニケーション能力、パートナーへの信頼、対戦相手に対する尊敬心を養うとともに基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎技術の確認 グラウンドストローク、ネットプレー、サーブ等			
第3回：ゲームにおける基礎技術の利用方法の確認、審判法を学ぶ			
第4回：シングルス フットワーク、コースの打ち分け			
第5回：シングルス フットワーク、コースの打ち分け			
第6回：シングルスポジショニング ショットセレクション（攻守）			
第7回：シングルス ルール確認、グループ練習			
第8回：シングルス ミニゲーム（審判法を身につける）			
第9回：ダブルス ルール確認、グループ練習			
第10回：ダブルス ポジションと役割、グループ練習			
第11回：ダブルスゲームの基本確認 雁行陣			
第12回：ダブルスゲームの基本確認 平行陣			
第13回：ダブルスゲーム ミニゲーム（審判法を身につける）			
第14回：ダブルスゲーム 異なる技能のメンバーでのミニゲーム			
第15回：団体戦			
テキスト			
授業にて適宜配布する。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

受講態度，技術獲得へ意欲的に取り組んでいるか，準備への参加（70％），
テニス競技の競技特性の理解と戦術戦略（20％）

獲得した技術をゲームで状況に応じて生かす工夫，オリジナリティ（10％）

授業科目名： バドミントンA I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 井上 希美
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
1. ルールを理解し、試合の進行ができる。				
2. 自分のプレイスタイル（得意なプレー）を理解し、ゲームを楽しむ。				
3. 周囲とコミュニケーションをとり、励ましあったり、助け合ったり、協力しあったりして、楽しみを共有する。				
授業の概要				
バドミントンを得意な人だけが楽しむのではなく、初めての人やバドミントンが得意でない人も、参加者全員がバドミントンを楽しむということをモットーに授業を進めていく。徐々にゲームの得点を増やしていき、バドミンントンのゲームに慣れて、最終的には公式ルールの得点である21点ゲームを行う。				
授業計画				
第1回：ガイダンス、ルール確認				
第2回：ダブルスゲーム 4人1組でグループ 7 点ゲーム				
第3回：ダブルスゲーム 4人1組でグループ 11点ゲーム				
第4回：ダブルスゲーム 3人1組でグループ 7 点ゲーム				
第5回：ダブルスゲーム 3人1組でグループ 11点ゲーム				
第6回：ダブルスゲーム 2人1組でグループ 7 点ゲーム				
第7回：ダブルスゲーム 2人1組でグループ 11点ゲーム				
第8回：課題練習 習得したい技術の練習を行う				
第9回：団体戦① 6 グループによる総当たりのリーグ戦				
第10回：団体戦② 6 グループによる総当たりのリーグ戦				
第11回：団体戦③ 6 グループによる総当たりのリーグ戦				
第12回：団体戦④ 6 グループによる総当たりのリーグ戦				
第13回：団体戦⑤ 6 グループによる総当たりのリーグ戦				
第14回：21点ゲーム大会				
第15回：フリーゲーム				
テキスト				
授業にて適宜配布する。				
参考書・参考資料等				

なし
学生に対する評価 授業態度（80％）：主体的活動、試合の内容、審判、準備、片づけ。 技術向上の姿勢（9％）：技術向上に対する取り組み。 貢献度（11％）：他者への技術的サポートや精神的サポートなど。

授業科目名： ハンドボール	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉森 弘幸
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： ハンドボールの技術及び知識を習得する。			
到達目標：			
1. 授業の課題に積極的に取り組み、ハンドボールの基本動作ができる。			
2. ハンドボールのルールを理解し、ゲームの中でジャンプシュートができる。			
3. ハンドボールのゲームの進め方や運営・管理を理解する。			
授業の概要			
まずは、受講生が今持っている力で行うゲームから入り、ハンドボールそのものを実感してもらう。その上で、攻防に必要な基本プレーを学び、ゲーム局面が発展していく面白さに触れることを本授業のねらいとしている。ゲーム中心の活動を通して、ハンドボールの技術・戦術、ルールを理解し、「ゲームの中でジャンプシュートを決めること（初心者）」ができるよう授業の目標を設定している。中・上級者には「基本プレーを駆使し、味方を活かしゲームの組み立てや展開ができること」とする。授業の後半以降は各チームでゲームプランを設定する。また同時に、メンバー間のコミュニケーションやチームワークを図りつつ、「ゲームを楽しむ」その雰囲気を共有することも本授業のねらいとする。			
授業計画			
第1回：アンケート（経験度）調査と授業ガイダンス			
第2回：ボールスキルⅠ（パス・キャッチ・シュート）とオフ・ザ・ボールの動き方			
第3回：ボールスキルⅠ（ランパスからシュート）とオフ・ザ・ボールの動き方			
第4回：ボールスキルⅠ（ショルダーパスからシュート）とオフ・ザ・ボールの動き方			
第5回：ボールスキルⅠ（コンタクトパスからシュート）とオフ・ザ・ボールの動き方			
第6回：オフィシャル・ルールの学習			
第7回：ボールスキルⅡ（シュートバリエーション）と関係プレー			
第8回：ボールスキルⅡ（切り返し系フェイントからのシュート）と関係プレー			
第9回：ボールスキルⅡ（回転系フェイントからのシュート）と関係プレー			
第10回：攻撃のシステム（ポジション攻撃）			
第11回：防御のシステム（ゾーン防御）			
第12回：防御システム（ゾーンからプレスへ）からの速攻法（1次）			

第13回：防御システム（プレス防御）からの速攻法（2次・3次）

第14回：ポジション移動攻撃と帰陣のしかた

第15回：まとめゲーム

テキスト

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・実技への取り組み（70%）

実習自己評価（技術分析とゲーム観察）レポート（15%）

積極性・交流・他者理解（15%）

授業科目名： ボールゲームⅢ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 寿浩
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 様々な球技について、技術や知識を身につける。			
到達目標： 各球技系種目の基本的な知識・技能を獲得し、ゲームを行うことができる。 チームプレーを通して、他者と積極的にコミュニケーションを図る。 スポーツを通して、フェアプレーの精神と成立条件を学ぶ。			
授業の概要			
ボールゲームⅢでは、ゴール型球技・ネット型球技・ベースボール型球技を幅広く扱う。また、男女の体力差や各競技の習熟度の差を考慮し、ルールや用具を柔軟に変更しながら行う。 授業は、各球技種目の技術や戦術を学習し、それらの「醍醐味を理解する」こと、グループやチームでの活動を通して、「協働することのおもしろさを学習する」ことを主なねらいとしている。学生同士のコミュニケーションを軸に授業展開する中で、互いの特徴を理解し合い、競技そのものやチームで活動することの魅力を学習していく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：ソフトボール①（ルール確認、習熟度確認）			
第3回：ソフトボール②（基礎練習）			
第4回：ソフトボール③（ミニゲーム）			
第5回：バスケットボール①（ルール確認、習熟度確認）			
第6回：バスケットボール②（基礎練習）			
第7回：バスケットボール③（ミニゲーム）			
第8回：サッカー①（ルール確認、習熟度確認）			
第9回：サッカー②（基礎練習）			
第10回：サッカー③（ミニゲーム）			
第11回：フットサル①（ルール確認、基礎練習）			
第12回：フットサル②（ミニゲーム）			
第13回：バレーボール①（ルール確認、習熟度確認）			
第14回：バレーボール②（基礎練習）			

第15回： バレーボール③（ミニゲーム）
テキスト 授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業・実技への取り組み（70%） 基礎技術の獲得度・競技の理解（20%） 獲得した技術をゲーム状況に応じて生かす工夫がされているか（10%）

業科目名： バスケットボールA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 勢津子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： バスケットボールの技術や知識、仲間との協働性を身につける。			
到達目標：			
① 状況に応じたボール操作（パス・シュート・ドリブル等）を修得できる。			
② 連携した動きを練習して、マンツーマンやゾーンの攻防の知識と実践能力を修得できる。			
③ ゲームでは作戦を立てて勝敗を争う知識と実践能力を習得できる。			
④ 自主的にゲームを運営する能力を習得できる。			
⑤ 練習やゲームに取り組む中で、自らの役割を果たしチームに貢献する能力を習得できる。			
授業の概要			
バスケットボールは時間内に高い位置のゴールにシュートを入れて得点を競う攻守混合型の球技である。「ボールを持ったらどうプレイする」には、ボールを持った人の個人技能だけでなくチームの役割や戦術が大きく影響する。一緒に練習やゲームをしていくうちに、個人の特徴を理解し、より確率の高いシュートにつなげるチーム力が向上して、個々のスキルが上達していく。授業ではゲームに役立つスキルと基本的な連携プレイの練習をしてゲームを行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、チーム編成、練習とゲームの方法、ボール操作（入りやすいシュート）			
第2回：マンツーマンオフenseⅠ 数的優位とスペース。			
第3回：マンツーマンオフenseⅡ ポストプレイとアウトサイドシュートを使い中外の連携で攻める。			
第4回：マンツーマンオフenseⅢ パス&ランとドライブの合わせ。			
第5回：マンツーマンオフenseⅣ ピック&ロールで時間をかけずに攻める。			
第6回：マンツーマンオフenseⅤ オフボールスクリーンで連続シュートチャンス。（チーム替え）			
第7回：マンツーマンオフenseⅥ 場所を決めてセットオフense。			
第8回：マンツーマンディフェンスⅠ ボールマンを守る。			
第9回：マンツーマンディフェンスⅡ オフボールマンとポストマンの守り方。			
第10回：ゾーンディフェンス ゾーンディフェンスの型と守り方。			
第11回：ゾーンオフenseⅠ ギャップを攻める。（チーム替え）			

第12回：ゾーンオフenseⅡ アウトサイドシュートと速攻等。

第13回：攻防の作戦を考える。

第14回：状況に応じて修正する力を養う。

第15回：まとめのトーナメント戦

テキスト

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

練習・試合など授業への取り組み態度（50％）、攻防の知識理解と実践能力（30％）、
チームワーク（10％）、貢献度（10％）

授業科目名： バレーボールA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小栗 和雄
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ①ある程度の基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ）ができる。 ②チームの勝利のために、仲間に対して声かけしたり、自分の技術を洗練させたりすることができる。			
授業の概要 この授業を通してバレーボールの面白さを体感し、生涯スポーツとして今後もバレーボールをやってみたいと思えるような授業を目指す。全ての受講生が積極的にボールを追って、仲間との一体感を楽しみ、充実した汗を流せるような授業をねらいとする。全員の活動量や楽しみを確保するために、基本的に初心者（高校までの授業での経験しかないレベル）を対象として行っていく。そのため、授業の最初の数時間はルールを制限した簡易なゲームから入り、基本技術の練習も適時入れていく。最終的には白熱したラリーが続き、ゲーム中に相手の攻撃をブロックしたり、組織的にレシーブしたりできるようなレベルを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方），ミニゲーム 第2回：バレーボールの基本姿勢，フットワーク，ミニゲーム 第3回：基礎技術の練習（オーバーハンドパス，アンダーハンドパス），ミニゲーム 第4回：基礎技術の練習（アンダーハンドサーブ，オーバーハンドサーブ），ミニゲーム 第5回：基礎技術の練習（アンダーハンドレシーブ，オーバーハンドレシーブ），ミニゲーム 第6回：基礎技術の練習（直上トス，オープントス），ミニゲーム 第7回：基礎技術の練習（スパイク，ブロック），ミニゲーム 第8回：チーム練習（守備を中心に） 第9回：チーム練習（攻撃を中心に） 第10回：チーム練習（コンビネーションを中心に） 第11回：チーム練習，レベル別ゲーム 第12回：リーグ戦，総合練習（守備を中心に） 第13回：リーグ戦，総合練習（攻撃を中心に） 第14回：リーグ戦，（コンビネーションを中心に） 第15回：スキルテスト，まとめ（パス，レシーブ，サーブ，スパイク）			
テキスト			

授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業・実技への取り組み（70％），技術点(30％)

授業科目名： 女子サッカーA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 希美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
到達目標： 1. ルールを理解する。 2. チームが勝つために、自分の役割を理解し、実践する。 3. あらゆることを楽しむために、周囲と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。			
授業の概要 ゲームを中心に授業を展開していきます。ゲームは、ミニゲームからスタートして、最終的には公式の大きさに近いコートでのゲームへと発展していきます。毎回の授業としては、ゲームの前に基礎技術を練習してゲームに入るという形になります。基礎技術は、ボールを「蹴る」「止める」のパスを中心に行います。技術練習は、準備運動を兼ねます。技術練習を行いますが、技術の習得がねらいではなく、サッカーを通して周囲とコミュニケーションをとり、体を動かす楽しさ、お互いに助け合いながらボールを追いかける楽しさなど、あらゆる状況の中で「楽しさ」を追求することをねらいとします。			
授業計画 第1回：キャンパスライフの健康科学（講義） 第2回：ガイダンス 第3回：ルール確認、基礎練習（パス）、チーム分け 第4回：ミニコートゲーム（5対5）、基礎練習（攻撃） 第5回：ミニコートゲーム（5対5）、基礎練習（守備） 第6回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習、チーム分け 第7回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習（攻撃） 第8回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習（守備） 第9回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習、チーム分け 第10回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（攻撃） 第11回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（守備） 第12回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第13回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第14回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第15回：まとめ			
テキスト			

授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業・実技への取り組み（70%）：主体的活動、試合の内容、審判、準備、片づけ。 貢献度（30%）：他者への技術的サポートや精神的サポートなど。

授業科目名： 女子サッカーB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 希美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
到達目標： 1. ルールを理解する。 2. チームが勝つために、自分の役割を理解し、実践する。 3. あらゆることを楽しむために、周囲と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。			
授業の概要 ゲームを中心に授業を展開していきます。ゲームは、ミニゲームからスタートして、最終的には公式の大きさに近いコートでのゲームへと発展していきます。毎回の授業としては、ゲームの前に基礎技術を練習してゲームに入るという形になります。基礎技術は、パスやフェイント、ドリブルなどを行います。技術練習は、準備運動を兼ねます。技術練習を行いますが、技術の習得がねらいではなく、サッカーを通して周囲とコミュニケーションをとり、体を動かす楽しさ、お互いに助け合いながらボールを追いかける楽しさなど、あらゆる状況の中で「楽しさ」を追求することをねらいとします。			
授業計画 第1回：キャンパスライフの健康科学（講義） 第2回：ガイダンス 第3回：ルール確認、基礎練習（パス、フェイント、ドリブル）、チーム分け 第4回：ミニコートゲーム（5対5）、基礎練習（攻撃） 第5回：ミニコートゲーム（5対5）、基礎練習（守備） 第6回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習、チーム分け 第7回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習（攻撃） 第8回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習（守備） 第9回：ハーフコートゲーム（7対7）、基礎練習、チーム分け 第10回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（攻撃） 第11回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（守備） 第12回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第13回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第14回：チーム対抗戦（10対10）、チーム練習（総合練習） 第15回：まとめ			
テキスト			

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・実技への取り組み（70%）：主体的活動、試合の内容、審判、準備、片づけ。

貢献度（30%）：他者への技術的サポートや精神的サポートなど。

業科目名： サッカー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 上田 真也
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： サッカーの技術や知識、仲間との協働性を身につける。 到達目標： ・ サッカーの基本的な戦術について理解し、実践する。 ・ 生涯スポーツの一つとして、サッカーを実践できるようになる。			
授業の概要 個人、グループ、チームにおける戦術を理解し、実践することでサッカーの楽しさを感じることを経験する。毎回、授業前半はテーマに沿ったトレーニングを行い、後半はゲームを行う。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション（サッカーとは？） 第 2 回：ボールフィーリング 第 3 回：パス&コントロール 第 4 回：ドリブル（運ぶドリブル） 第 5 回：ドリブル（相手を交わすドリブル） 第 6 回：シュート 第 7 回：個人戦術（攻撃） 第 8 回：個人戦術（守備） 第 9 回：グループ戦術（攻撃） 第 1 0 回：グループ戦術（守備） 第 1 1 回：チーム戦術（攻撃） 第 1 2 回：チーム戦術（守備） 第 1 3 回：リーグ戦、チーム戦術（攻撃） 第 1 4 回：リーグ戦、チーム戦術（守備） 第 1 5 回：まとめ			
テキスト 授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等 日本サッカー協会、サッカー指導者の教科書、東洋館出版社、2014年			

学生に対する評価

授業への取り組み70%、レポート30%

授業科目名： ジョギングII	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田 知之
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ①ジョギングの運動特性や身体への影響について理解する。 ②各自の適正な運動強度を把握し、健康の維持・増進に資するジョギングが実践できるようにする。			
授業の概要 ジョギングは健康の維持・増進にとって大変有効である。また手軽にできるため生涯スポーツとしても人気である。 授業では様々なジョギング方法を体験し、ジョギングの楽しみ方を知るとともに、ジョギング前の講義により運動中の身体の反応やトレーニング方法などについても学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス ジョギングの楽しみ方 第2回：コミュニケーションジョギング 第3回：瞑想ジョギング＋コミュニケーションジョギング 第4回：持久力テスト（Pre） 第5回：インターバルジョギング 第6回：フォーム撮影 第7回：理想のフォーム グラウンドでのジョギング① 第8回：運動時の心臓の働き グラウンドでのジョギング② 第9回：ジョギングに必要な体力 校内でのジョギング① 第10回：ウォーミングアップ、クーリングダウン 校内でのジョギング② 第11回：運動強度の管理 校内でのジョギング② 第12回：持久力トレーニングのバリエーション インターバル走 第13回：ビルドアップ走 第14回：持久力テスト（Post） 第15回：まとめ 授業の振り返り			
テキスト 授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

授業への取り組み70%、毎授業時のレポート30%

授業科目名： トレーニング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山脇 恭二
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 トレーニングを計画できる能力やトレーニングを日々の生活に取り入れる。			
授業の概要 スポーツパフォーマンスを向上させるには、人間のからだの成り立ちや運動しているときのからだの動きを知っていることが重要である。また、運動を続けたときのからだの変化を知ること、何を、どのようにトレーニングプランして行くことが大切なのか理解できるようになる。			
授業計画 第1回：トレーニングの基本的な考え方 第2回：.トレーニングと体力向上の機序 第3回：ウォーミングアップとクーリングダウンについて 第4回：空中感覚のトレーニング 基礎（トランポリンの活用） 第5回：空中感覚のトレーニング 応用（トランポリンの活用） 第6回：スピードを高めるトレーニング 第7回：筋力・瞬発力を高めるトレーニング 第8回：自重トレーニング 第9回：持久力を高める、サーキットトレーニング 第10回：バランスボールを用いたトレーニング 第11回：コーディネーショントレーニング 第12回：バランストレーニング 第13回：コアトレーニング（バランスボール活用） 第14回：コアトレーニング（スラックライン活用） 第15回：まとめ			
テキスト 授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への取り組み及びレポートなどで総合的に評価する。			

業科目名： 雪上スポーツで学ぶ（ スキー）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春日 晃章
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： スキーの技術や知識、コミュニケーション力等を身につける。			
到達目標： ・正しいスキー技術を体得する。 ・ゲレンデマナーなど、教養ある態度を身に付ける。 ・コミュニケーション力を高める。			
授業の概要			
スキーは、生涯スポーツの一つとして、また大学生が身に付けるべき教養実践科目として取り 上げている。厳しい冬の銀嶺と澄みきった青空を背景に、白い大斜面に思い思いのシュプール を描く。スキーは自然との深い融合に喜びと楽しみがある。受講生は、自己実現に欠くことが できない安全で正しいスキー技術を体得する一方で、野外スポーツに欠くことのできない自然 への畏敬、現代人に欠けていると言われる他者理解（思いやり）、宿舎での生活やゲレンデで のマナーといった生涯につながる教養ある態度も身に付ける。さらにそこに集う人達とのコミ ュニケーションをより深め、雪国での楽しく充実した合宿生活を体験する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：スキーの科学			
第3回：スキー技術の指導過程			
第4回：スキーの傷害予防と救急処置、スキーマナーと健康管理			
第5回：雪上マナーとゲレンデマナー（長野県菅平高原スキー場にて）			
第6回：スキー道具について（長野県菅平高原スキー場にて）			
第7回：雪上に慣れる（長野県菅平高原スキー場にて）			
第8回：ボーゲン①（下半身に重きをおいて）（長野県菅平高原スキー場にて）			
第9回：ボーゲン②（方向の切り替え）（長野県菅平高原スキー場にて）			
第10回：ボーゲン③（上半身に重きをおいて）（長野県菅平高原スキー場にて）			
第11回：ボーゲン④（スピード調整）（長野県菅平高原スキー場にて）			
第12回：パラレル①（下半身に重きをおいて）（長野県菅平高原スキー場にて）			
第13回：パラレル②（上半身に重きをおいて）（長野県菅平高原スキー場にて）			

第14回：パラレル③（エッジ立てによる方向切り替え）（長野県菅平高原スキー場にて） 第15回：まとめ
テキスト 授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ゲレンデマナーなどの受講態度(50%)。各レベルでの上達度(40%)。その他(10%)。

業科目名： 剣道Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 一
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 剣道の技術や知識を身につける。			
到達目標： 日本古来の伝統文化としての剣道の特性に関する知識を深め、海外(ハンガリー・フランス・香港・ギリシア)での剣道指導の経験を紹介しながら生涯スポーツとしての基礎作りを目指す。			
授業の概要			
剣道の打撃動作がスポーツバイオメカニクスのみにて、いかなる動作で行われているか、また、運動学的にいかなる点に注意して動作したらよいのかを中心に未鍛錬者と鍛錬者の動作を分析上比較検討しながら、剣道の基礎的技能の実践を通して、心身の鍛錬と技能の向上を図る。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：姿勢・礼法・構え・竹刀の握り方・素振り			
第3回：上下振り，斜め振り，基本打撃(面・小手)			
第4回：基本打撃(胴・突き)，足さばき			
第5回：仕かけ技(面，小手，払い面，払い小手)			
第6回：仕かけ技(胴，払い胴，小手一面)			
第7回：仕かけ技(小手・胴，片手突き)			
第8回：応じ技(面抜き胴，面返し胴)			
第9回：応じ技(面すり上げ面(表裏))			
第10回：応じ技(小手抜き面，小手すり上げ面，小手すり上げ小手)			
第11回：仕かけ技(引き面，引き小手，引き胴)			
第12回：仕かけ技(出ばな面，出ばな小手)			
第13回：試合(団体)			
第14回：試合(個人)			
第15回：講義（まとめ）			
テキスト			
授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等			

全国教育系大学剣道連盟、教育剣道の科学、大修館書店、2004年

学生に対する評価

授業・実技への取り組み50%、技能50%。

業科目名： フットサル	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上田 真也
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： フットサルの技術や知識を身につけながら、仲間とともにフットサルの楽しさを感じる。 到達目標： ・フットサルの基本的な戦術について理解し、実践する。 ・生涯スポーツの一つとして、フットサルを実践できるようになる。			
授業の概要 個人、グループ、チームにおける戦術を理解し、実践することでフットサルの楽しさを感じることを経験する。毎回、授業前半はテーマに沿ったトレーニングを行い、後半はゲームを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（フットサルとは？） 第2回：ボールフィーリング 第3回：パス&コントロール 第4回：ドリブル（運ぶドリブル） 第5回：ドリブル（相手を交わすドリブル） 第6回：シュート 第7回：個人戦術（攻撃） 第8回：個人戦術（守備） 第9回：グループ戦術（攻撃） 第10回：グループ戦術（守備） 第11回：チーム戦術（攻撃） 第12回：チーム戦術（守備） 第13回：リーグ戦、チーム戦術（攻撃） 第14回：リーグ戦、チーム戦術（守備） 第15回：まとめ			
テキスト 授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等			

なし
学生に対する評価 授業への取り組み70%、レポート30%。

業科目名： ソフトボールBI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田 知之
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 授業中の課題に積極的に取り組める。 2. ソフトボールに必要な基本動作（打つ、投げる、捕る）ができる。 3. ソフトボールのルールを理解し、ゲームの進行ができる。 4. 授業やチームを構成する一員として、自己の能力に応じた役割を果たせる。			
授業の概要			
ソフトボールは誰もが楽しみやすく、生涯スポーツとしても多く取り組まれているスポーツの1つである。本授業では、ソフトボールを通した「健康・体力づくり」と「ソフトボールを楽しむこと」をねらいとし、そのために必要な基本動作、ルールの習得を目指す。また、ゲームを通し個人やチームの課題を見つけ、その克服に向け積極的に取り組むこと、役割・協力・交流などの社会性を養うこともねらいとする。未経験者でもゲームを楽しめるように本授業では基本的に「スローピッチソフトボール」のルールで行う。			
授業計画			
第1回：講義：キャンパスライフの健康管理			
第2回：ガイダンス ソフトボールのルール解説			
第3回：捕球・送球・打撃練習			
第4回：捕球・送球・打撃練習 ゲーム形式での練習（チームメイトを知る）			
第5回：捕球・送球・打撃練習 ゲーム形式での練習（チームメイトを生かす）			
第6回：チーム再編、新チームでの練習			
第7回：1次トーナメント予選			
第8回：1次トーナメント決勝・3位決定戦			
第9回：チーム再編②、新チームでの練習			
第10回：2次トーナメント予選			
第11回：2次トーナメント決勝・3位決定戦			
第12回：チーム再編③、新チームでの練習			
第13回：3次トーナメント予選			
第14回：3次トーナメント決勝・3位決定戦			
第15回：まとめ、授業内容の復習			
テキスト			

授業にて適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への取り組み総合的に判断し評価する。

評価項目は、受講態度（積極性・チームメイトとの協力）、基本動作の出来栄え（練習・ゲームの遂行状況）、 ルールの理解度とする。

授業科目名： フライングディスク	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大坪 健太
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 生涯スポーツとして「フライングディスク」を楽しめる技術と知識を身につける。			
2. セルフジャッジで運営されるフライングディスクスポーツを体験し、フェアプレーの精神と成立条件を学ぶ。			
3. チームプレーを通して、他者と積極的にコミュニケーションを図る。			
授業の概要			
フライングディスク（フリスビー）を初めて投げる人や基本を学びたい人にレベルを合わせ、スローとキャッチの基本技術の獲得を目指す。また、国際連盟公認10種目を楽しみながら年齢や体力が異なる人達と一緒にフライングディスクを楽しむ方法を学ぶとともに、自己に合わせた運動との関わり方を身に付けることも目的する。			
授業計画			
第1回：救急救命・健康講義			
第2回：オリエンテーション			
第3回：基本技術（スローイングとキャッチング）：ドッジビー			
第4回：基本技術と基礎能力測定：ディスタンス・アキュラシー			
第5回：ディスクゴルフ（説明と練習）			
第6回：ディスクゴルフコンペ			
第7回：ディスクゴルフコンペ			
第8回：ディスタンス・アキュラシー・ドッジビー			
第9回：アルティメット（説明と練習）			
第10回：アルティメット			
第11回：アルティメット（リーグ戦）			
第12回：アルティメット（リーグ戦）			
第13回：アルティメット（リーグ戦）			
第14回：アルティメット（リーグ戦）			
第15回：ディスタンス・アキュラシー・ドッジビー			
テキスト			
授業にて適宜配布する。			
参考書・参考資料等			

必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価

授業・実技への取り組み（70％）、基礎技術の獲得度・競技の理解度（20％）、獲得した技術をゲーム状況に応じて生かす工夫がされているか（10％）

授業科目名： バランスボールエク ササイズ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田 真衣子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
・生涯スポーツとして「バランスボールエクササイズ」を楽しめる技術と知識を身につける。 ・生きていく上で欠かせない真の体力を理解し、様々なバランスボールエクササイズの運動方法を知り、実生活でも取り入れられるように理解する。 ・運動を習慣化することで自分自身の身体的、精神的、環境的变化を感じ、今や今後の自分自身と客観的に向き合う。			
授業の概要			
なぜ人は年齢を重ねると老けるのか。なぜ頭やりたいことがあってもすぐ行動にうつせないのか。なぜ親や人目を気にして、自分にブレーキをかけてしまうのか。なぜ朝起きるのがつらいのか。その「なぜ」をについて体を整えながら理解し、改善していく。 誰にでも比較的取り入れやすいバランスボールを用いた運動に親しみながら、徐々に運動強度を高めていき自分自身にあった運動メソッドを理解する。 また、バランスボールを用いた様々な運動方法を経験し、体力、筋機能、神経機能、関節機能、呼吸循環機能の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：救急救命・健康講義			
第2回：オリエンテーション①（体がエネルギーを生み出す仕組み、心と体の繋がり）			
第3回：オリエンテーション②（自律神経、ホルモンバランスなどについて）			
第4回：基本技術と安全実施			
第5回：体力、柔軟性を高める運動			
第6回：体力、柔軟性を高める運動とリズムを取り入れた運動			
第7回：インナーマッスルを高める運動			
第8回：インナーマッスルを高める運動とリズムを取り入れた運動			
第9回：上半身の筋力を高める運動とリズムを取り入れた運動			
第10回：下半身の筋力を高める運動とリズムを取り入れた運動			
第11回：平衡性を高める運動とリズムを取り入れた運動			
第12回：敏捷性を高める運動とリズムを取り入れた運動			
第13回：全身持久性を高める運動			
第14回：全身持久性を高める運動とリラクゼーション			

第15回：まとめ、理解度評価
テキスト 授業にて適宜配布する。
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布する。
学生に対する評価 基礎技術の獲得度・競技の理解度(50%)、授業・実技への取り組み(50%)

授業科目名： 外国語コミュニケーション（英語）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長尾 裕子，飯田 泰弘， 柴田 純子，林 日佳理， デイビッド バーカー， 長尾 裕子，巽 徹， 瀧沢 広人
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 英語コミュニケーション能力を総合的に向上させる 到達目標： (1) 身の回りの話題に関して、適切な表現や語彙を使って、自分の考えや事実を英語でわかりやすく話すことができる (2) 英語独特の音声や音変化について理解し、聞き取ったり、発音したりすることができる (3) 身近な話題に関する文章を素早く読んで内容を把握したり、内容に対して英語でコメントできる (4) 「聞き返す」、「確認する」といった会話のためのストラテジーを理解し、効果的に使用できる (5) クラスメートの話す英語を聞き、適切な反応をしたり、与えられた評価基準に基づいてアドバースしたりできる			
授業の概要 英語を「聞く、話す、読む、書く」技術を高めるトレーニングと並行して、身近な話題について自分の考えを英語で話したり、客観的な事実について英語で説明したり、相手の話を聞いて適切な反応をする。また、英語特有の発音や、円滑なコミュニケーションをとるためのストラテジーについて学び、ピアレビューを行うことで、英語コミュニケーションの技術をクラスの仲間と互いに向上させあう学習を体験する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、自己紹介 第2回：趣味について話す① 単語学習、リスニング、リーディング 第3回：趣味について話す② 会話練習（二人一組） 第4回：趣味について話す③ 会話練習（グループワーク） 第5回：バラエティ番組について話す① 単語学習、リスニング、リーディング			

第6回：バラエティ番組について話す② 会話練習（二人一組）
 第7回：バラエティ番組について話す③ 会話練習（グループワーク）
 第8回：アートについて話す① 単語学習、リスニング、リーディング
 第9回：アートについて話す② 会話練習（二人一組）
 第10回：アートについて話す③ 会話練習（グループワーク）
 第11回：自分について話す① 単語学習、リスニング、リーディング
 第12回：自分について話す② 会話練習（二人一組）
 第13回：自分について話す③ 会話練習（グループワーク）
 第14回：これまでの復習、インタビュー
 第15回：スピーチ
 定期試験

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

演習への取り組み（20%），小テスト（30%），試験（50%）で評価する。

授業科目名： 外国語コミュニケーション（ドイツ語）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 惟
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： ドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に向上させる。			
到達目標： ドイツ語の発音、文字、語彙、文法などの基本的な言語的特徴について理解する。 ドイツ語が話されている地域の文化や社会について理解を深める。			
授業の概要			
ドイツ語について学ぶとともに、ドイツ語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気づきを促す。 毎回のテーマについて、グループワークで事前レポートを作成する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 ドイツ語圏についての基本情報を理解する（文字と発音、基本のあいさつ）			
第3回 旅の計画、基本観光地について話す（人称代名詞と動詞の規則変化）			
第4回 音楽、オペラ、コンサートについて話す（動詞の規則変化、sein動詞）			
第5回 交通事情、滞在、買い物について話す（名詞と冠詞の格変化、haben動詞）			
第6回 食事、レストラン、注文の仕方について話す（名詞と冠詞の格変化、否定冠詞）			
第7回 おすすめ読書、文学について話す（動詞の不規則変化）			
第8回 おすすめ映画、ドラマについて話す（動詞の不規則変化、命令形）			
第9回 病気、けがについて話す（人称代名詞の3・4格、非人称のes）			
第10回 紛失、盗難にあったときの対処法について話す（定冠詞類、所有冠詞）			
第11回 短期語学コース、留学について話す（話法の助動詞）			
第12回 道案内、迷子について話す（前置詞の格支配）			
第13回 ナチズム、移民への感情について話す（分離・非分離動詞、時間）			
第14回 少数民族について話す（過去表現）			
第15回 ドイツ語圏について総まとめ			
定期試験			

テキスト 授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。
学生に対する評価 毎回のグループワークとレポート：60%、試験：40%により評価する。

授業科目名： 外国語コミュニケーション（フランス語）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢橋 透
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： フランス語による口頭での、あるいはテキスト上でのコミュニケーションのための基礎力を養成する。また語学的側面と異文化理解的側面を併せ持ち、実際の異文化間コミュニケーションが行われる素地を形成する。			
到達目標： 発音、文法の基礎から学習し、学習者が自立して継続学習できるレベルにまで指導することを目的とする。			
授業の概要			
ヌーヴェル・ヴァーグの代表的映画作家エリック・ロメールの映画台本を購読する。毎回担当者を決め、訳読を行い、また練習問題を解くことで重要文法事項・表現を身に付けてもらう。また、フランスの生活、文化といった異文化理解を深める。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：出会いの時の対話：あいさつする			
第2回：友人のアパルトマンでの対話：願望・欲求を伝えるI<j'aimerais,j'ai envie de>			
第3回：図書館での対話：仮定を伝えるI <条件法現在>			
第4回：ガーデンパーティの対話：中性代名詞で伝えるI <y>			
第5回：全仏オープンテニス会場での対話：願望・欲求を伝えるII<j'aimerais que 接続法>			
第6回：カフェでの対話：仮定を伝えるII <条件法過去>			
第7回：市場での対話：比喩的表現で伝える<comme si>			
第8回：コンサートホールでの対話：理由を伝える			
第9回：学校での対話：選択の疑問詞で伝える			
第10回：ギャラリーでの対話：不定詞の形容詞的用法で伝える			
第11回：ビーチでの対話：命令表現で伝える			
第12回：通りでの対話：中性代名詞で伝えるII <en>			
第13回：公園での対話：中性代名詞で伝えるIII <le>			
第14回：パーティでの対話：間接疑問で伝える			
第15回：仕事場での対話：義務表現で伝える			
テキスト			

授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等
矢橋透、『ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場』、フィルムアート社、2018年
学生に対する評価
レポートにより評価する。

授業科目名： 外国語コミュニケーション（中国語）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 正高
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 中国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力を習得する。 到達目標： 1. 学習した表現や構造を使って中国語で会話できるようにする。 2. 学習した表現や構造を使って中国語で作文できるようにする。 3. 中国語の頻出表現や文の構造を理解し、辞書を引きながら日常的な文章を読めるようにする。			
授業の概要 1年次に習得した中国語の基礎力をもとに、中級レベルの会話ができるように学習する。また後半には、まとまった文章を読解する力も身につける。合わせて、中国語の背景にある中国社会や文化等についても、随時紹介する。			
授業計画 以下のビジネス・シーンを踏まえた会話を練習する。 第1回：空港 第2回：地下鉄 第3回：ホテルのチェックイン 第4回：予定の確認 第5回：タクシーの会話 第6回：買い物 第7回：レストラン 第8回：会社訪問 第9回：意見交換 第10回：現場見学 第11回：価格交渉 第12回：文化 第13回：別れ 第14回：Web会議 第15回：日本の紹介			

定期試験
テキスト 授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。
学生に対する評価 課題（20％）、小テスト（30％）、試験（50％）により評価する。

授業科目名： 外国語コミュニケーション（ポルトガル語）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 瀧藤 千恵美 担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： ポルトガル語による口頭での、あるいはテキスト上でのコミュニケーションのための基礎力を養成する。また語学的側面と異文化理解的側面を併せ持ち、実際に異文化間コミュニケーションが行われうる素地を形成する。 到達目標： ポルトガル語の基礎的コミュニケーション能力の習得。				
授業の概要 第二外国語で学習したポルトガル語の基礎文法を復習しながら会話・読解・リスニングの力を養っていく。また会話の手助けとなるよう、ブラジルに関する文化や社会の知識も紹介していく。				
授業計画 第1回：授業に関するオリエンテーション 第2回：出会いの時の対話：あいさつする 第3回：友人宅に招かれたときの対話：自己紹介を表現する 第4回：学校での対話：数字で伝える 第5回：食堂での対話：現在形の動詞を活用して伝える 第6回：カフェでの対話：完全過去を活用して伝える 第7回：パーティでの対話：時を表す表現を利用して伝える 第8回：市場での対話：「知っている」「できる」ことを伝える 第9回：通りでの対話：不完全過去表現を利用して伝える 第10回：広場での対話：二つの過去形の違いを利用して伝える 第11回：サッカー場での対話：再帰動詞を利用して伝える 第12回：ビーチでの対話：現在完了の表現を利用して伝える 第13回：学校での対話：比較級、最上級を利用して伝える 第14回：図書館での対話：大きい数字の表現を利用して伝える 第15回：今までのまとめ				
テキスト				

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50％），口頭発表（20％），授業内での取り組み，課題（30％）により評価する。
。

授業科目名： 外国語コミュニケーション（朝鮮・韓国語）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢橋 透
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ： 朝鮮・韓国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力を習得する。また語学的側面と異文化理解的側面を併せ持ち、実際の異文化間コミュニケーションが行われうる素地を形成する。				
到達目標： 音声面：より複雑な文章を自然かつ正確に発話できるようにする。 文法・表現面：アスペクト表現（進行・継続表現、結果表現）、義務表現、許可表現、完了表現、ぞんざい体（パンマル、ハンダ体）、用言の名詞化、引用表現、伝聞表現、受身表現、使役表現など語彙面：基礎語彙の増強、派生用言				
授業の概要				
グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。英語以外の言語、すなわち朝鮮・韓国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：出会いの時の対話：文字と発音①（基礎的な語彙の理解）				
第3回：友人のアパートでの対話：文字と発音②（基礎的な文法知識）				
第4回：食堂での対話：活用形の復習				
第5回：市場での対話：アスペクト表現、詠嘆形で伝える				
第6回：学校での対話：義務表現、許可表現、完了表現を利用して伝える				
第7回：図書館での対話：ぞんざい体（パンマル）、約束形、意志形を利用して伝える				
第8回：サッカースタジアムでの対話：ぞんざい体（ハンダ体平叙）、反語的否定形を利用して伝える				
第9回：仕事場での対話：ハンダ体（疑問・命令・勧誘）を利用して伝える				
第10回：カフェでの対話：話法、引用形（平叙・疑問）を利用して伝える				
第11回：ピクニックでの対話：引用形（命令・勧誘）を利用して伝える				

第12回：通りでの対話：伝聞表現、内容節を利用して伝える

第13回：海岸での対話：受動表現・使役表現を利用して伝える

第14回：買い物での対話：造語法を利用して伝える

第15回：学習のまとめ

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

課題等の提出状況、学習した構文を用いた作文の内容などにより総合的に判断する。

授業科目名： 情報教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 亜湖
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 情報モラルやプログラミング教育などの教育課題に取り組むための基礎的知識および技能を習得する。			
到達目標： 本科目では、教育現場において情報教育や教科指導におけるICT活用を実施するために必要な基礎的知識および技能を習得することを目的とする。・文書作成および編集技術を習得し、報告書や指導案等を作成できる。・授業や校務における表計算ソフトの効果的な使用方法について知る。・図解表現技術およびプレゼンテーション技術を習得し、自分が伝えたい事項を効率的に伝達する方法を知る。			
授業の概要			
「教員に求められるICT活用能力には、授業の準備や評価、授業中にICTを活用する力、学習者のICT活用や情報モラルなどを指導する力、校務にICTを活用する力が含まれる。そこで、1年生必修の基礎授業科目である「情報教育」では、講義および演習を通して、教員に求められるICT活用能力を育成するために必要な基礎的な知識・技能の習得を行う。			
授業計画			
第1回：イントロダクション，大学の教育情報システムの操作，学内ネットワーク接続方法			
第2回：情報倫理教育			
第3回：著作権教育			
第4回：文書作成の基礎 -図表を挿入した文書の作成-，画像編集とファイル形式			
第5回：表計算ソフトの基礎 -関数を用いた計算-			
第6回：表計算ソフトの応用 -フィルター，条件書式，関数を用いた処理-			
第7回：表計算ソフトを用いたグラフ作成			
第8回：校務でのICT活用 -データベースの基礎，差し込み印刷-			
第9回：ネットワークの基礎			
第10回：プログラミングの基礎 -コンピュータサイエンスアンプラグド-			
第11回：プログラミングの応用 -プログラミングソフトの利用-			
第12回：プレゼンテーション作成			
第13回：プレゼンテーション			

第14回：プレゼンテーション相互交流①

第15回：プレゼンテーション相互交流②，総括

テキスト

配布する「情報教育テキスト」を使用する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎時の課題により評価を行う。

授業科目名： 教育学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 長谷川哲也
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標				
受講者が今後、幼稚園教諭や小・中・高等学校教諭になるうえで必要となる教育の基本概念や基本原理、および、教育学の理念や教育目的論・教育価値論について学ぶ。同時に、従来の学校や家庭における教育の歴史や思想、制度の歩み、および、近代教育学の営みとその変遷について、現代社会の教育問題と結びつけながら理解する。				
授業の概要				
教育という用語の由来、その概念と歴史、他の類似した用語との区別について講義する。ついで、教育学の概念と理念、歴史、家族における教育、近代公教育制度について、多様な理念や歴史的背景があることを概説する。また、様々な教育家の教育思想を幅広く採り上げるとともに、現代社会に特有の教育課題についても説明する。さらに、現代の子ども論や学習論についても検討し、教育（学）の基礎的な知識を網羅的に身につけられるように講じる。				
授業計画				
第1回：「教育」の語義と語源と意味				
第2回：教育の基本的概念と理念：成長・発達と社会化・個性化・人格化				
第3回：教育を成立させる要素：子ども・教師・学習内容・学校・家庭・地域社会と教育				
第4回：教育学の構造とその発展：教育の哲学・科学・実践学と反省的实践家				
第5回：「教育」の営みとその歴史：「教育」の出発点の捉え方				
第6回：近代公教育制度の成立と発展：教育観の変遷をめぐって				
第7回：日本の教育の歴史：寺子屋・藩校から学制、教育基本法、現代の学習指導要領について				
第8回：家庭教育・幼児教育思想：ルソー、フレーベル、モンテッソーリらの教育思想				
第9回：学校公教育に関する思想：コメニウス、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイらの教育思想				
第10回：近代日本の教育思想：福沢諭吉、森有礼、沢柳政太郎、小原国芳らの教育思想				
第11回：批判的視点からの教育思想：デュルケーム、イリイチ、フーコーらの教育思想				
第12回：現代における学校論および学習論：スキナー、ソーンダイク、ブルーナーらの教育思想				
第13回：現代社会における教育課題Ⅰ：いじめ、不登校、教育格差、子どもの貧困				
第14回：現代社会における教育課題Ⅱ：ESD・SDG s、教育技術の発展とICT活用、教員の働き方改革				
第15回：教師になることの意義と可能性を探る：自らの学校体験を振り返りながら				
定期試験				
テキスト				
特になし				

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

毎時間ごとの課題（30％）、定期試験（70％）により評価する。

観察・ディスカッションでの活動・発言（50％）、レポート課題の記述（50％）により評価する。

授業科目名： 教育経営論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 棚野勝文
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
教育法規の法体系、公教育制度の全体像の理解をもとに、教育行政、学校経営、危機管理、学校と地域との連携等に関する基礎的内容を習得した上で、現在の法体系、教育制度および地域連携等に関する諸課題をあげることができる。				
授業の概要				
教育法学、公教育制度の観点から、教育制度、教育政策、学校経営、危機管理、学校と地域の連携、教育実践の構造とシステムさらに問題点を考える。 1. 教育法規の法体系、公教育制度を構造的に理解する。 2. 学校現場における問題事例を、教育法学、公教育制度の視点から考えることができる。 3. 公教育制度、法解釈の基礎的理解を踏まえて、教育課題解決の方法論を習得する。				
授業計画				
第1回：国家と教育制度				
第2回：自治体と公教育制度				
第3回：学校改革と教育政策				
第4回：教育法規から見た学校管理				
第5回：教育課程と教育改革				
第6回：教師の身分・服務に関する法制度				
第7回：教師の資格・力量と教員育成制度				
第8回：教育法規から見たいじめ・自殺				
第9回：不登校の実態と法規、制度的対応				
第10回：体罰の実態と防止対策				
第11回：学校事故の実際と対応				
第12回：学校の危機管理の実際と対応				
第13回：教育法、教育制度から見た子育て				
第14回：地域社会の学校参加の実際と課題				
第15回：生涯教育と社会制度				
定期試験を実施				
テキスト				
「法学シリーズ職場最前線 5 教育のための法学—子ども・親の権利を守る教育法—」（2013年、ミネルヴァ書房）				

参考書・参考資料等

講義中に適宜資料配布

学生に対する評価

講義中の小レポート（50％）、定期試験（50％）により評価する。

授業科目名： 教育・学校心理学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 別府哲、月元敬
				担当形態： オムニバス・複数
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
○幼児、児童の心身の発達について、代表的な発達段階を踏まえそれぞれが有する固有の発達の意味を理解するとともに、各領域（認知、社会性、運動）における発達の具体的内容を理解する。				
○幼児、児童及び生徒の学習について、その基本的な過程を理解し、学習を支える動機づけ・記憶の特性を理解する。				
授業の概要				
（１）幼児、児童の心身の発達について、ピアジェの発達段階論を中心に、幼児期、学童期におけるそれぞれの段階の発達の特徴とその意味について理解する。あわせて、前操作期から具体的操作期、具体的操作期から形式的操作期への移行における、各領域の発達を、認知、社会性、運動にわけて理解できるようにする。				
（２）幼児、児童及び生徒の学習について、その基本的な過程について論じる。また、学習を支える動機づけや記憶の特性について青年・成人と対比させながら概説する。				
（３）子どもの心理（発達と学習）を踏まえた教室場面における指導や児童・生徒理解への応用について論じる。				
授業計画				
第1回： 子どもの発達のとらえ方：発達段階における理解（担当：別府哲）				
第2回： 幼児期、学童期前期の発達（担当：別府哲）				
第3回： 学童期後期の発達（担当：別府哲）				
第4回： 学習のメカニズム（担当：月元敬）				
第5回： 動機づけ（担当：月元敬）				
第6回： 記憶のメカニズム（担当：月元敬）				
第7回： 発達・学習と教育実践の関わり（担当：別府哲・月元敬）				
定期試験				
テキスト				
特に指定しない。各回で資料を配布する。				
参考書・参考資料等				
①子安増生（編著）よくわかる認知発達とその支援 ミネルヴァ書房				
②大村彰道（編著）教育心理学Ⅰ：発達と学習指導の心理学 東京大学出版会				

学生に対する評価

試験（90％）、授業での感想レポート（10％）により評価する。

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 平澤 紀子
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
学習上又は生活上の困難のある子供一人一人が、授業や学習活動に参加している実感及び達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係諸機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法を理解する。				
授業の概要				
幼稚園・小学校・中学校・高等学校における（１）発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解、（２）発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程並びに支援の方法、（３）障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の支援について取り上げる。				
授業計画				
第１回：幼稚園・小学校・中学校・高等学校における特別支援教育の展開				
第２回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解Ⅰ：特別な支援を必要とする幼児児童生徒				
第３回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解Ⅱ：障害のある幼児児童生徒				
第４回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程・個別の指導計画・個別の教育支援計画				
第５回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の支援方法Ⅰ：特別な支援を必要とする幼児児童生徒の支援方法				
第６回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の支援方法Ⅱ：通級による指導・自立活動				
第７回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の支援方法Ⅲ：他職員・関連諸機関との連携				
第８回：障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の支援				
定期試験				
テキスト				
平澤紀子（編著）特別支援教育から教職を学ぶ				
参考書・参考資料等				
小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）				
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）				

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）（平成31年2月 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）

学生に対する評価

毎講義での小テスト（8回）40%、定期試験60%により評価する。

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今村光章、長倉守
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
幼稚園教育要領及び学習指導要領を基準として、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
授業の概要			
幼稚園・小学校・中学校・高等学校における（１）学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義、（２）教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法、（３）教科・領域・学年を横断してカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義について取り上げる。			
授業計画			
第1回：学習指導要領とは何か その重要性をめぐって（担当：長倉）			
第2回：学習指導要領・幼稚園教育要領の法的性格及び位置付け（担当：長倉）			
第3回：教育課程編成の目的と目標（担当：長倉）			
第4回：学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（担当：長倉）			
第5回：新学習指導要領・幼稚園教育要領の主な改訂内容及びその社会的背景（担当：長倉）			
第6回：教育課程が社会において果たしている役割や機能（担当：長倉）			
第7回：教育課程編成の基本原則（担当：長倉）			
第8回：教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法（担当：今村）			
第9回：単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野からの教育課程編成・指導計画作成 (担当：今村)			
第10回：幼児・児童・生徒の実態を踏まえた教育課程編成・指導計画作成（担当：今村）			
第11回：学校・地域の実態を踏まえた教育課程編成・指導計画作成（担当：今村）			
第12回：学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義（担当：今村）			
第13回：学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの重要性（担当：今村）			
第14回：学力形成とカリキュラム評価の基礎的な考え方（担当：今村）			
第15回：カリキュラム評価及びPDCAサイクルとカリキュラムの改善（担当：今村）			
定期試験			
テキスト			
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）			

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

高見茂・田中耕治・矢野智司監修、西岡加名恵著、教職教養講座〈第4巻〉教育課程、協同出版、2017年。

学生に対する評価

毎講義での小テスト（3回）30%、定期試験70%により評価する。

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 柴崎直人 担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ				
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。また総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すものである。 本授業は、学校教育全体における特別活動と総合的な学習の時間の意義を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けるとともに、総合的な学習の時間にかかわる指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。 (1) 学級活動・ホームルーム活動や児童会活動・生徒会活動、学校行事、クラブ活動（部活動）、総合的な学習の時間の指導ができるようにすること (2) グループワークを通して様々な特別活動と総合的な学習の時間が各地で展開されていることを理解すること				
授業の概要				
特別活動は、集団活動を基盤とした活動であり、児童生徒の主体的な参加と教師の適切な指導・助言によって、教育効果を発揮するものである。そこで「集団のあり方と教師の関わり方」をキーワードにして特別活動と総合的な学習の時間の考察を深める。具体的には、学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、学校行事、クラブ活動（部活動）の各内容と総合的な学習の時間の指導の在り方について、実際に計画を立案する活動を通して総合的に検討する。				
授業計画				
第1回：教育課程における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけ				
第2回：学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の意義と役割				
第3回：特別活動及び総合的な学習の時間の歴史				
第4回：学級活動・ホームルーム活動と総合的な学習①（意義と役割）				
第5回：学級活動・ホームルーム活動と総合的な学習②（指導法）				
第6回：学級活動・ホームルーム活動と総合的な学習③（模擬授業1進め方のポイント）				
第7回：学級活動・ホームルーム活動と総合的な学習④（模擬授業2話し合い活動の指導）				
第8回：児童会活動・生徒会活動と総合的な学習①（意義と役割）				

第9回：児童会活動・生徒会活動と総合的な学習②（指導法）

第10回：学校行事と総合的な学習①（意義と役割）

第11回：学校行事と総合的な学習②（指導法）

第12回：クラブ活動・部活動と総合的な学習

第13回：各内容の指導実践事例

第14回：児童生徒の参加を促す指導方法（ワークショップ論）

第15回：特別活動及び総合的な学習の可能性と今後の課題

テキスト

『特別活動概論 改訂第2版』長沼豊・柴崎直人・林幸克，久美出版，2014，ISBN9784861892325

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

受講態度（30％）と提出課題の内容・提出状況の結果、発表内容等（70％）により評価する。

授業科目名： 教育方法学・技術 (ICT 活用を含む)		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 益子典文、今井亜湖 担当形態： オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 教育の方法及び技術 ・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
・ これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 ・ 教育の目的に適した指導技術を理解し、教育目的に適した学習指導案を作成し、作成した学習指導案に基づいた授業を実施できる。 ・ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進のあり方、情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。				
授業の概要				
本科目は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力の育成に必要な、教育の方法、教育の技術、情報通信技術の効果的活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるために、「授業づくり」というテーマのもとで、その理論、教育方法、教育技術等の知識・技能について座学で学んだ後、演習の模擬授業づくりを通して、座学で学んだ知識や技能を活用するための土台を育成する。				
<授業計画>				
第1回：オリエンテーション／授業における教師の技術と情報通信技術の役割（担当：益子） 授業における教育技術の考え方、そして教育技術を強化するツールとしての情報通信技術の導入と学校教育の現状について解説する。				
第2回：欧米の教育方法の変遷（担当：今井） 時代の変遷や社会的背景と関連付けながら、教育方法に関する欧米の主要な思想や理論を解説する。				
第3回：日本の教育方法の変遷（担当：今井） 我が国における主な教育方法の変遷について解説し、これからの社会を担う子供達に求められる資質・能力と教育方法のあり方を考察する。				
第4回：授業の基礎的な要件と教育技術（担当：今井） 学ぶ立場から理想の授業のあり方を考え、それを教える立場からどう実現するかを教師、学習者、教材の各視点から考察する。				
第5回：学校におけるICT活用の意義と環境整備（担当：益子） 学校における情報通信技術（ICT）活用が必要となった背景を解説するとともに、ICT活用導入による効果、特別の支援の意義、活用のために必要な組織整備（ICT支援員など）について解説する。				
第6回：授業におけるICT活用技術の基礎（担当：益子）				

個別最適な学びの概念、個別最適な学びに対応するICTを利用した具体的な授業場面を通して「令和の日本型学校教育」におけるICT活用の意義を理解する。同時に「相互作用（インタラクション）」の観点から、実際の授業における活用例を通して学習者用端末とコンテンツの意味を理解する。

第7回：ICTによる教育技術イノベーション（担当：益子）

個別最適な学び、協働的な学びの実現・強化におけるICTの役割を理解するために授業実践事例の分析を行い、授業設計における条件を理解する。

第8回：ICTによる学習指導・校務改善の可能性（担当：益子）

スタディ・ログがどのように蓄積され、学習活動の改善に有効利用可能かについて実践事例に基づいて理解する。またICT活用の具体例として、オンライン授業の導入や校務支援システムの機能について解説する。

第9回：情報活用能力の指導法（情報モラル含む）（担当：益子）

「情報活用能力」の概念および情報活用能力調査の結果解説により、学校教育において育成すべき資質・能力としての情報活用能力（情報モラル含む）の内容および教科横断的な育成事例について理解する。

第10回：情報通信機器の指導法（担当：益子）

学校におけるタブレットPCなど学習者用端末活用の指導法を解説する。活用方法の一環としてセキュリティやSNSなど情報モラルの指導の必要性についても解説する。

第11回：ICT活用技術事例研究（担当：益子）

これまでに学習した教師のICT活用技術を応用し、（ICTを活用していない）学習指導案、授業記録、授業ビデオ等を基本データとして、それらの授業にICTを導入した場合の導入方法およびその効果を想定した授業の展開過程を記述する。

第12回：授業設計と学習指導案（担当：今井）

インストラクショナルデザインを用いた授業設計について参考となる理論や考え方を解説し、学習者を中心とした授業設計について考察する。さらに、学習指導案の構成とその作成にあたって留意すべき点についても解説する。

第13回：授業で用いる指導技術（担当：今井）

授業を行う時に教師が配慮すべき点を教育活動と学習活動に分けて解説し、授業設計や学習指導案作成にどのように反映するかを考察する。

第14回：模擬授業（1）（担当：今井）

第14回はクラスを5人編成の小グループに分け、小グループごとに第12回～第13回の講義内容をふまえて、小学校におけるICTを用いた授業の学習指導案の作成及び模擬授業の準備を行う。

第15回：模擬授業（2）／総括（担当：今井）

第15回は模擬授業の実施及び相互評価を行う。また、模擬授業の成果をふまえ、理論と実践の往還について講義を行う。

テキスト

担当教員が適宜配布する予定である。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月公示 文部科学省）

小学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省）

学生に対する評価

各担当教員から提示されるレポート試験及び毎時ショート課題（70％）、模擬授業に関する課題（30％）により評価する。

授業科目名： 生徒指導の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本拓真、吉澤寛之 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 生徒指導の意義や原理と内容、教育課程への位置づけ、今日的課題を具体例に基づき理解する。			
2. 生徒指導の基盤となる児童・生徒の発達、個人差のとらえ方、精神的健康に関する基本的な理論や知識を習得し、すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。			
3. 生徒指導上の課題であるいじめや非行などの反社会的行動、不登校やひきこもりなどの非社会的行動といった問題行動に至る背景とそのメカニズムを理解し、学校内外の関係機関との連携も含めた対応方法について理解する。			
授業の概要			
生徒指導では、すべての児童・生徒のそれぞれの人格のよりよき発達をめざし、自己指導能力を育てる営みであることを理解させることを目標とする。その上で、一人ひとりの児童・生徒の自己実現を援助し、支援する教育活動がどのように実践されればよいのかを、授業で提供するさまざまな課題を通じて体験的に理解する。			
授業計画			
第1回： 授業オリエンテーション：講義の概要の全体像と学習目標の理解（担当：松本）			
第2回： 生徒指導の意義と課題1：生徒指導の意義や原理と内容の理解（担当：松本）			
第3回： 生徒指導の意義と課題2：生徒指導はいつ・誰が・どのように行うか（担当：松本）			
第4回： 生徒指導の意義と課題3：生徒指導が取り組むべき今日的課題（担当：松本）			
第5回： 生徒指導の内容・理論1：児童・生徒における知識と感情の発達（担当：松本）			
第6回： 生徒指導の内容・理論2：児童・生徒における自己の尊重と社会性の発達 (担当：松本)			
第7回： 生徒指導の方法1：個人差としての性格のとらえ方と個別指導（担当：松本）			
第8回： 生徒指導の方法2：集団心理の理解と集団指導（担当：松本）			
第9回： 生徒指導の方法3：児童・生徒の精神的健康を損なう問題の理解と他機関との連携 (担当：松本)			
第10回： 児童・生徒の反社会的行動1：学校における問題行動・いじめの理解（担当：吉澤）			
第11回： 児童・生徒の反社会的行動2：反社会的行動の行いやすさを決める個人差要因の理解 (担当：吉澤)			

第12回： 児童・生徒の反社会的行動3：反社会性の発達的变化に影響する背景要因の理解

(担当：吉澤)

第13回： 校則などの生徒指導に関する法令理解と学校場面での実践的介入 (担当：吉澤)

第14回： 児童・生徒の非社会的行動：不登校やひきこもりの理解 (担当：吉澤)

第15回： 授業のまとめとディスカッション (担当：吉澤)

定期試験

テキスト

AIMSで資料を適宜掲載する。

参考書・参考資料等

- ・ 生徒指導提要 文部科学省 教育図書 2010 978-4877302740
- ・ ゆがんだ認知が生み出す反社会的行動 吉澤寛之・大西彩子・ジニ, G.・吉田俊和 北大路書房 2015 978-4762828898
- ・ 小学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
- ・ 中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
- ・ 高等学校学習指導要領 (平成30年3月告示 文部科学省)

学生に対する評価

受講態度 (20%)、小レポート (20%)、定期試験 (60%) により評価する。

授業科目名： 教育相談及び進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤宗親、板倉憲政、長谷川 哲也 担当形態：オムニバス・複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の 理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 幼児児童生徒の教育的・心理的課題を理解し、支援するための教育相談（カウンセリング） に関する基礎的理論及び技法を身につけるとともに、児童生徒が長期的展望に立った進路を自 ら計画できるためのキャリア教育を含む進路指導の視点に立ったガイダンスおよびカウンセリ ングに関する必要な素養を身につける。			
授業の概要 この授業は、教育職員免許法による「教育相談の理論と方法」および「進路指導及びキャリ ア教育の理論及び方法」に関する科目であり、教員免許状における必須科目である。幼児・児 童・生徒の心身の発達をふまえ、そこで生じるさまざまな問題行動の理解と、様々な援助方法 について論じる。加えて、進路指導ならびにキャリア教育の在り方について論じる。			
授業計画 第1回：学校における教育相談の意義と課題（担当：伊藤） 第2回：心身の発達からみた不適応行動と発達課題（担当：伊藤） 第3回：不適応行動・問題行動とそのアセスメント（担当：伊藤） 第4回：カウンセリングの基礎：来談者中心療法とカウンセリングマインド（担当：伊藤） 第5回：カウンセリングの基本態度と傾聴技法（担当：伊藤） 第6回：力動的理解に基づいた教育相談（担当：伊藤） 第7回：行動主義的理解に基づいた教育相談（担当：板倉） 第8回：認知主義的理解に基づいた教育相談（担当：板倉） 第9回：家族療法的理解に基づいた教育相談（担当：板倉） 第10回：いじめ・不登校・虐待・非行への対応（担当：板倉） 第11回：校務分掌と教育相談（担当：板倉） 第12回：教育相談の計画と保護者・関係機関との連携（担当：板倉） 第13回：カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育（担当：板倉） 第14回：進路指導・キャリア教育の意義及び理論（担当：長谷川） 第15回：ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育（担当：長谷川・板倉） 定期試験			

テキスト
なし
参考書・参考資料等 長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平（編）2014 事例で学ぶ生徒指導・進路相談・教育相談 小学校編 遠見書房 長谷川啓三・佐藤宏平・花田里欧子（編）2014 事例で学ぶ生徒指導・進路相談・教育相談 中学校・高等学校編 遠見書房 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価 中間試験50%、期末試験50%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2 単位		担当教員名：安 直哉	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 220 人 12 講座ごとに、20 人前後の12 グループで実施する。					
教員の連携・協力体制 各講座の教職や指導法担当の教員が主となり、教科を主として担当する教員と連携をとって共同で授業を行う。また、岐阜県教育委員会の担当者、岐阜大学教育学部附属小中学校統括校長、教職サポート室員（教職経験者で教育実習等の補助をする非常勤講師）の講義を実施する。指導案作成や教材開発、模擬授業の設計・実施やICTの活用に関する指導・助言については、教職サポート室員が学部教員を補助する。					
授業のテーマ及び到達目標 教師力（①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児・児童・生徒理解や学級経営、④教科・保育・ICT活用等の指導力）の確認と補完することによって、卒業後に教員として学校教育に携われることができるようになる。					
授業の概要 コアカリキュラムの ACT ファイル（1 年生から 4 年生までの実習の記録・成績等）を主とし、上記目標に沿って、個々の学生の履修状況及び習得状況等に応じて、自己課題に重点を置き、実施する。 1 クラス 20 人程度の少人数で、幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれの教育現場に応じた実践的な授業の方法を主として演習形式において学ぶ。授業の内容に応じてワークショップ方式やロールプレイ等も取り入れる。教科及び特別活動において模擬授業を実施後に学生同士の意見交換を行い、教師力の知識・技能・実践力・ICT 活用指導力等を客観的に見直すなかで、各自が自らの実践的課題を見出す。 教師役だけではなく、幼児・児童・生徒側の役割演技や事例研究等を通じて、教員の組織における自己の役割や校務運営の重要性、保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているかについても確認する。模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力・ICT 活用指導力、子どもの反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法を身に付けているかを確認する。不足しているところをさらに補充することによって、教師力をより確実なものにする。					
授業計画 第1回 ガイダンス～「ACT ファイル」に基づく自己評価、自己目標の設定～ 第2回 教職実践特別講義① 教職への使命感と服務 [岐阜県教育委員会] 第3回 教職実践特別講義② 教育職員としての対人関係能力 [岐阜県教育委員会] 第4回 教職実践特別講義③ 学級経営と学習環境・ICT 環境の整備 [附属小中学校統括校長] 第5回 教職実践特別講義④ ①～③に基づく課題の提示とグループ討議 第6回 教育臨床（生徒指導）事例研究①事例（いじめ・不登校等）を通しての児童生徒理解と対処 [教職サポート室員]					

第7回 教育臨床（生徒指導）事例研究②役割演技：場面に応じた教師の話し方 第8回 授業観察の視点と方法～子どもを活かす授業づくり・学級環境(含 ICT 環境)～ 第9回 学校現場の観察 第10回 教科教育の授業設計① 題材の提示と授業展開構想(含 ICT 活用)の発表 第11回 教科教育の授業設計② 模擬授業とその評価、意見交換・グループ討議 第12回 特別活動の授業設計① 題材の提示と授業展開構想(含 ICT 活用)の発表 第13回 特別活動の授業設計② 模擬授業とその評価、意見交換・グループ討議 第14回 教科指導および特別活動の模擬授業の評価の観点 [教職サポート室員] 第15回 教職実践演習を通した学びを振り返り、教員となるにふさわしい十分な教師力を身に付けているかを意見交換のなかで確認する。
テキスト 実習の手引き、他は適宜提示
参考書・参考資料等 ACTファイル
学生に対する評価 前半の岐阜県教育委員会等の講義については、感想文の提出を求める。 後半は、主として演習であるため、授業への取り組み方や、教材開発、模擬授業の評価、及び、レポートを課すことによって評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。